ホンダ
F410/F510

取扱説明書

お買いあげありがとうございました。
お買いあげいただきましたF410・F510
をご使用になる前に，必ずこの取扱説
明書をお読みください。

お買いあげありがとう
ございました

お買いあげいただきました製品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいたホンダ販売店または下記の**<ご相談窓口>**にお気軽にお申しつけください。

なおホンダサービスの各地区センターでもお受けいたしております。

<ご相談窓口>

名称	電話番号	郵便番号	所在地
株式会社ホンダサービス お客様相談室　北海道	011(261)2073	060	北海道札幌市中央区北一条西7—1 〈本田技研工業㈱北海道支店内〉
株式会社ホンダサービス お客様相談室　仙台	022(224)6002	980	宮城県仙台市土樋1—11—2 〈本田技研工業㈱仙台支店内〉
株式会社ホンダサービス お客様相談室　東京	03 (423) 4211	107	東京都港区南青山2—1—1 〈ホンダ青山ビル内〉
株式会社ホンダサービス お客様相談室　名古屋	052(251)7651	460	愛知県名古屋市中区千代田1—7—2 〈本田技研工業㈱名古屋支店内〉
株式会社ホンダサービス お客様相談室　大阪	06 (312) 0151	530	大阪府大阪市北区南扇町7—31 〈本田技研工業㈱大阪支店内〉
株式会社ホンダサービス お客様相談室　九州	092(752)2255	810	福岡県福岡市中央区赤坂1—13—12 〈ホンダ福岡ビル内〉

・所在地，電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。
・ホンダサービスの各地区センターの所在地は別紙の住所一覧をご覧ください。

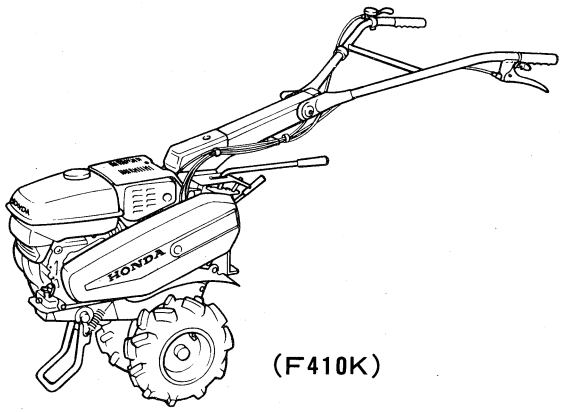
ホンダＦ410・Ｆ510は、小型、軽量で汎用性に富んだティラーです。安全、快適にお使いいただくために正しい取扱いをしなければなりません。

ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などにより、イラストや内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

本書はＦ410Ｋタイプを中心にまとめてあります。

ホンダＦ410･Ｆ510は、小型特殊自動車の認定を受けていません。一般公道でのトレーラー走行はできません。



（Ｆ410Ｋ）

トレーラー走行はできません。
（小型特殊自動車の認定を受けていません。）

目　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう …… 8

エンジン スイッチ …… 12
エンジン キル スイッチ(K,KS タイプを除く) …… 13
燃料コック レバー …… 14
エンジン回転調整レバー …… 14
チョーク レバー，チョーク ツマミ …… 15
主クラッチ レバー …… 16
操向クラッチ レバー(L,LB,LS,LBS タイプ) …… 18
変速レバー …… 18
始動グリップ …… 19
ハンドル高さ調整レバー …… 19
ハンドル固定レバー …… 20
動力取り出し軸 …… 23
ヒッチ ボックス(作業機取り付け部) …… 23
車輪取り付けピン …… 24

エンジンをかける前に点検しましょう …… 25

エンジン オイルの点検 …… 25
変速機オイルの点検 …… 26
空気清浄器(エア クリーナ)の点検 …… 27
ガソリンの点検 …… 27
タイヤ空気圧の点検 …… 28
バッテリの補充電(KS,LS,LBS タイプ) …… 29

エンジンのかけかた …… 30

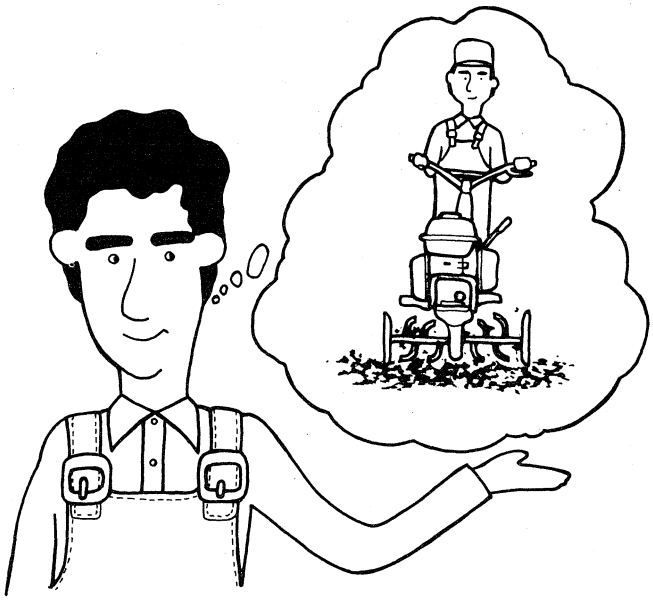
運転操作のしかた …… 38

変速レバー …… 38
主クラッチレバー …… 39
エンジン回転調整レバー …… 40
操向クラッチ レバー(L,LB,LS,LBS タイプ) …… 41
動力取り出し軸の使いかた …… 42

エンジンのとめかた ……43
定期手入れを行ないましょう ……46
日常点検 ……46
定期点検 ……47
やさしい点検・整備 ……48
携帯工具 ……48
エンジン オイルの交換 ……49
変速機オイルの交換 ……50
空気清浄器(エア クリーナ)の清掃 ……51
点火プラグの清掃、調整 ……52
燃料ろ過カップの清掃 ……53
エンジン回転調整ワイヤの調整 ……54
主クラッチ ワイヤの調整 ……55
操向クラッチ ワイヤの調整(L,LB,LS,LBS タイプ) ……56
駆動ベルトの調整 ……57
ヒューズについて(KS,LS,LBS タイプ) ……59
長期間使用しない時の手入れ ……60
別売部品 ……61
故障のときは ……62
配線図 ……63
主要諸元 ……66

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう

ティラーは正しく取扱って下さい。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な農作業のために次のことを必ずお守りください。



●安全のために知っておきたいこと

★日常点検、整備を忘れずに。(作業機を上げて点検する場合は、必ず落下防止を行なってください。)

★火災の恐れがある場所では作業しない。また格納の場合、火の気のないところにおくなど火災予防に十分注意してください。

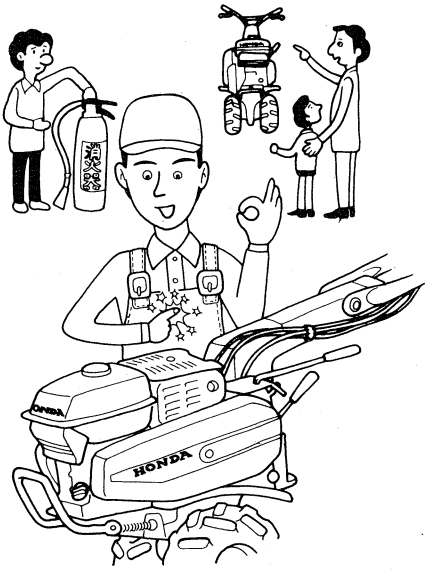
★子供を乗せたり、近寄らせないこと。

★工具を適切に管理し、正しく使用する。

★衣服や頭髪、手ぬぐいなどが巻込まれないよう、服装には十分注意する。

★停止時には必ずスタンドを立てる。

★ガソリンが漏れないよう、車載運搬時には燃料コックを閉じる。



●作業を始める前に

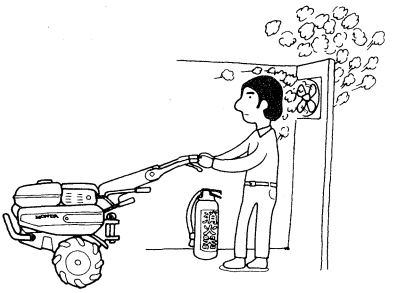
★必ず点検、整備を行なう。

・点検作業は、通行の妨害及び危険等のない平坦で安全な場所で行なう。

・屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は換気に十分注意する。

・装着する作業機に合わせて適正バランスを保つ。

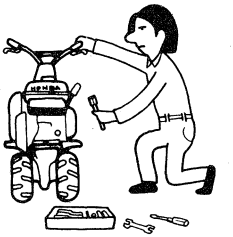
・指定以上のフロント ウェイトを装着しないこと。過大なウェイトを取り付けると本機の故障の原因になる場合がある。



★防護装置の保全

・防護装置は正しく取付けられているか。

・点検、整備のため取外された防護装置は正しく復元され、確実に締付けられているか。



●作業中の注意

★作業中は、まわりに十分注意し、関係者以外の人を近づけない。

★傾斜地では、転倒を防ぐため速度や旋回などに十分注意する。

★作業場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過など、転倒には十分注意する。

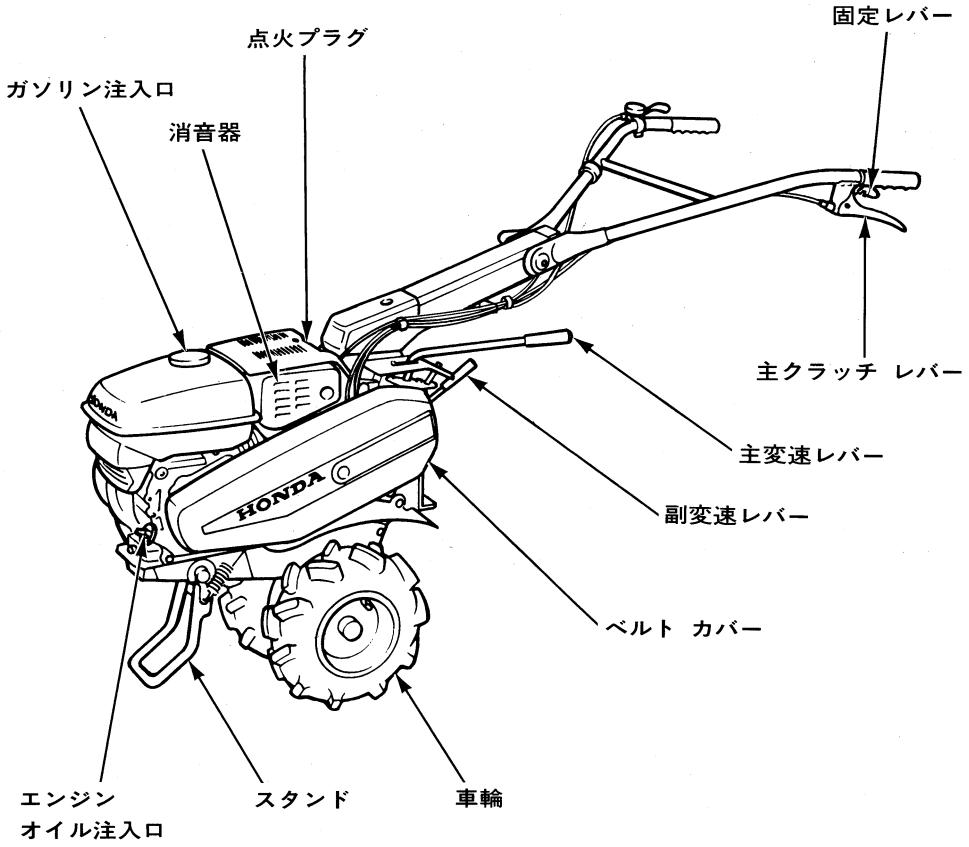
★作業場への出入り、溝または畔越えを行うときは、アユミ板等を使用してください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなく危険です。
★車軸作業機を取付ける場合は、車軸取付部のガタを必ず確認してください。異常にガタがある場合、そのまま使用すると本機を破損するばかりでなく危険です。お買い上げ販売店か最寄りのホンダサービスの各地区センターへお申しつけください。
★作業中は、動力伝達装置や回転部に接触しないよう特に注意する。
★土塊や石などがとび散る作業においては傷害に注意する。
★作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行なう。
★休けいなどで本機を離れる場合はエンジンをとめて安定した場所で確実に固定する。
★ガソリン補給時、必ずエンジン停止、火気厳禁。
・ガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動する。

●作業が終ったら

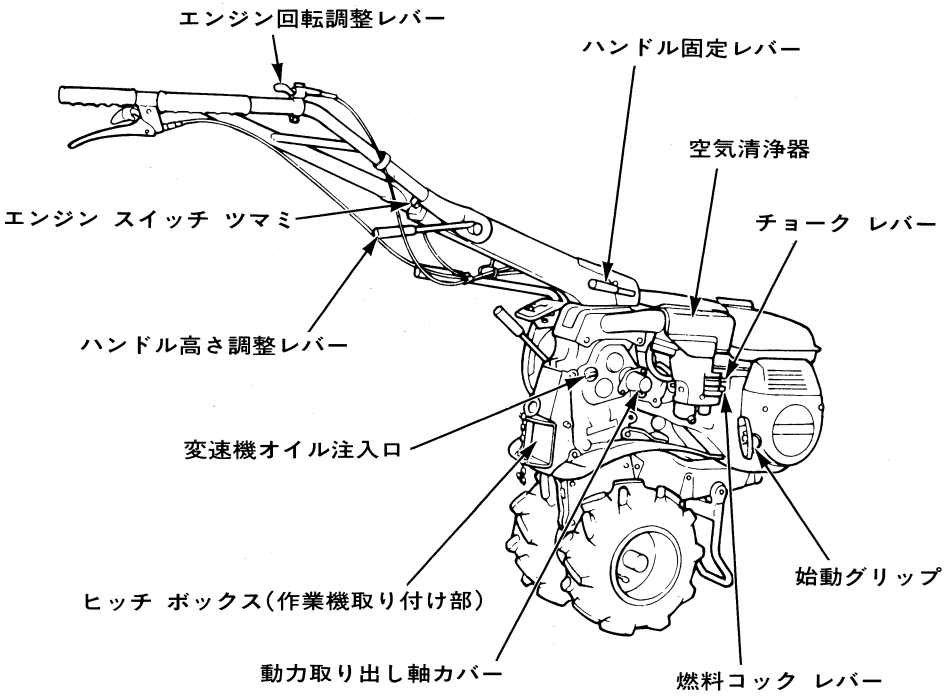
★次の作業のために機械の点検、整備を行なう。
★作業機の取り外しは、平坦で安全な場所で行なう。
★トラック等への積降し時は、転倒や落下に注意する。
(ロープを掛ける場合は、バッテリケース、カバーにはロープを掛けないでください。バッテリケース、カバーが変形します。)
★洗車時にはハンドル コラム先端の吸気取り入れ口、空気清浄器(エアクリーナ)のカバー締付部付近、バッテリ・ヒューズなどの電装品、および気化器に水がかからないように注意してください。これらの部分に強く水をかけると内部に水が浸入し、本機不調の原因となる場合がある。
★保管は、安定した場所で安全な状態で行なう。
・ハンドルを地面に付けた状態で保管するとガソリンが漏れたりエンジンがかかりにくくなることがあるので、必ずスタンドを接地させて置くこと。
★エンジン上部に物をのせるのは厳禁。
・特にマフラ(消音器)は熱くなっているので、ポリタンク等をのせると変形や漏れ等が発生する場所がある。
★屋外に放置する場合は、エンジンが冷えてからボディ カバー等をかけ、本機に雨水がかからないようにする。

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう

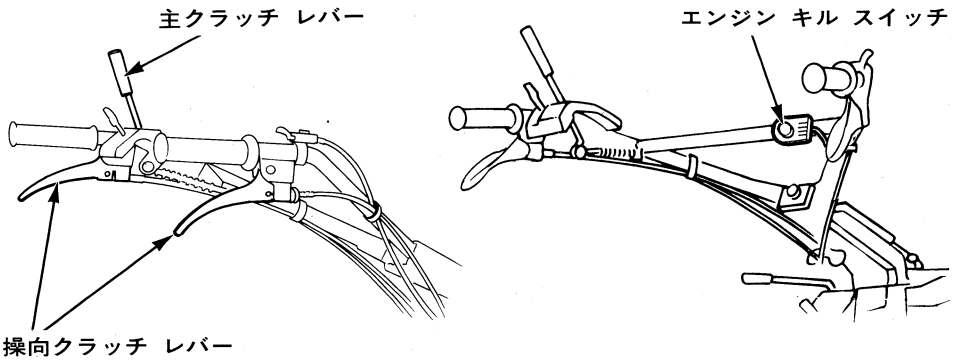
(F 410 K,F 510 K)



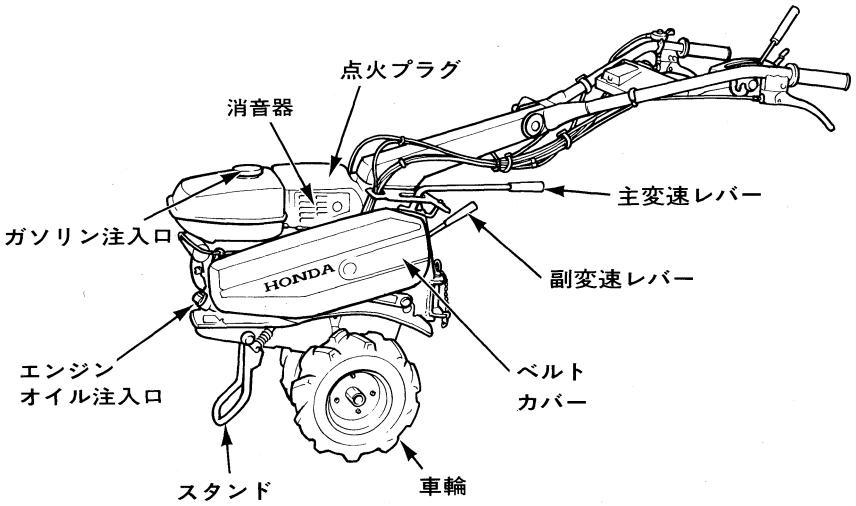
(F 410,F 510 K)



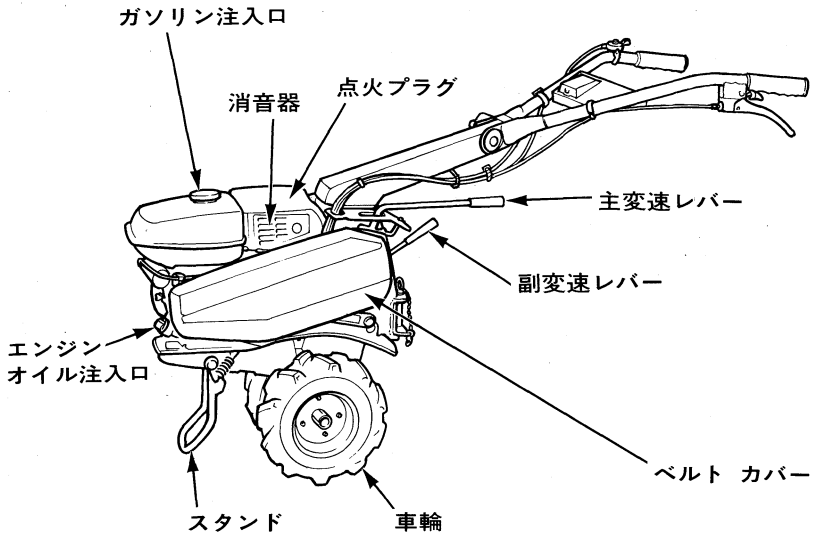
(F 410 L,F 510 L,LB)



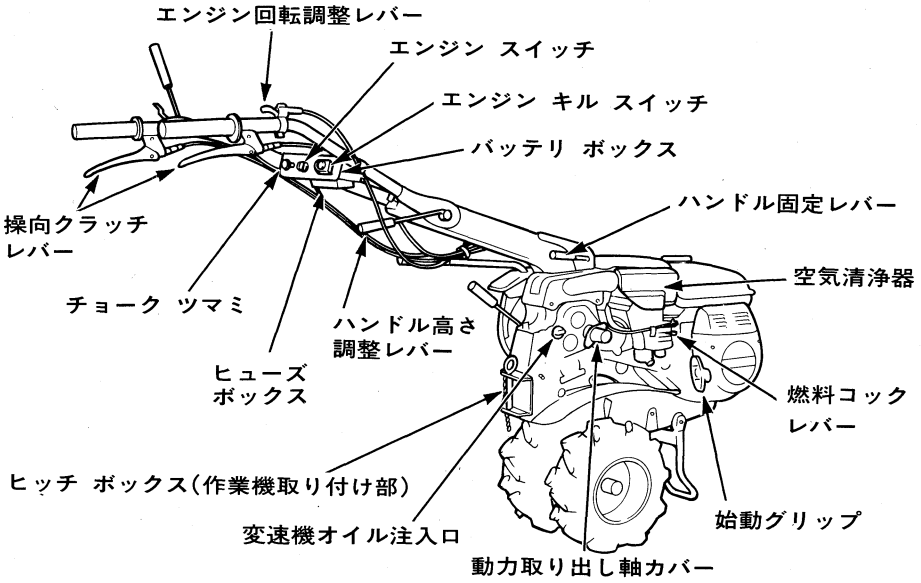
(F 410 LS,F 510 LS,LBS)



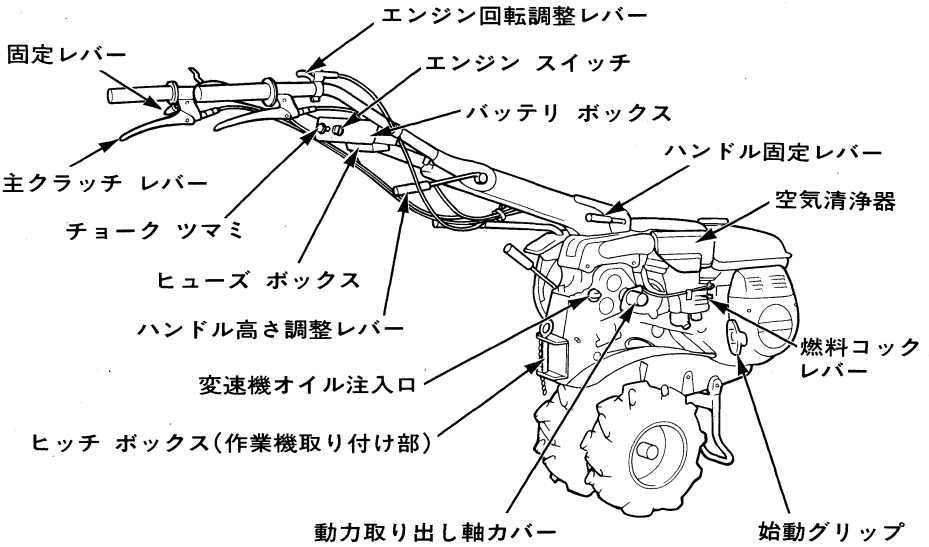
(F 410 KS,F 510 KS)



(F 410 LS,F 510 LS,LBS)



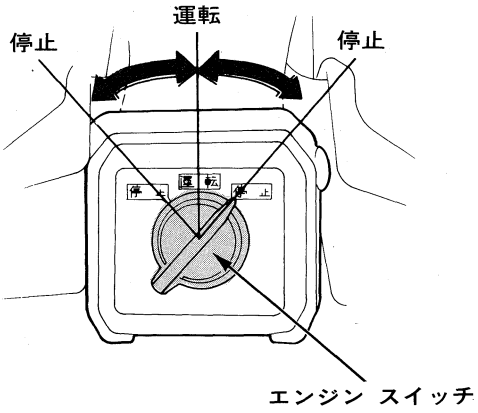
(F 410 KS,F 510 KS)



エンジン スイッチ

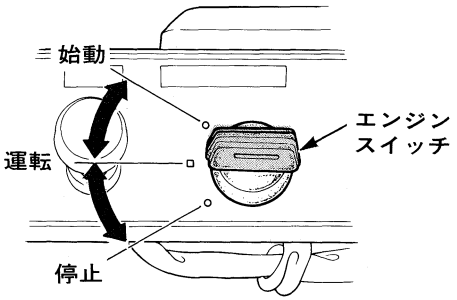
(K,L,LB タイプ)

スイッチは、エンジンの運転、停止をする時に操作します。



スイッチはエンジンの始動、運転、停止をする時に操作します。

(KS,LS,LBS タイプ)

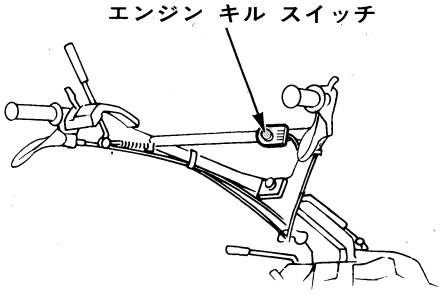


エンジン キル スイッチ

(L,LB タイプのみ)

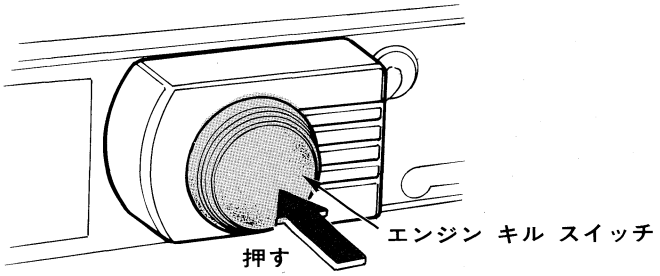
エンジン キル スイッチは押すだけでエンジンが停止できます。
エンジン停止後、(エンジン スイッチは"運転"の状態)始動グリップを引くとエンジンが始動します。

注意 ・通常のエンジン停止、保管、点検時は、エンジン スイッチを"停止"にしエンジン キル スイッチは使用しないでください。



(LS,LBS タイプのみ)

エンジン キル スイッチは押すだけでエンジンが停止できます。

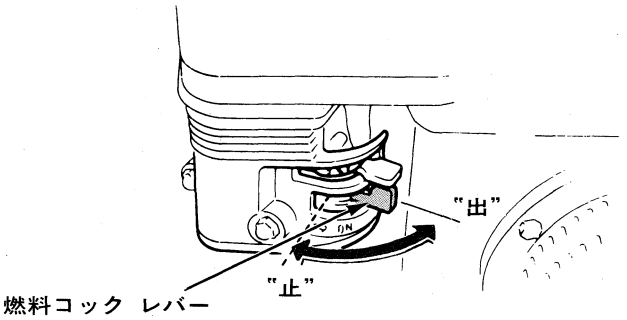


エンジン停止後、主クラッチ レバーが**"切"**の状態でエンジン スイッチ(キー)を始動の位置まで回わすとエンジンが始動します。

注意 ・通常のエンジン停止、保管、点検時は、エンジン スイッチを"停止"にしエンジン キル スイッチは使用しないでください。

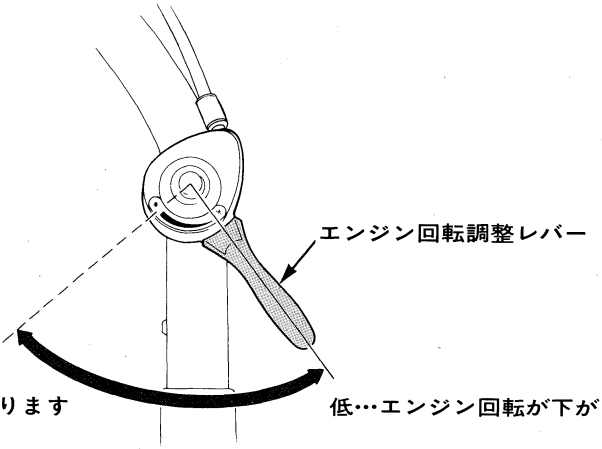
燃料コック　レバー

燃料コック　レバーは、タンクのガソリンを出したり止めたりする時に操作します。



エンジン回転調整レバー

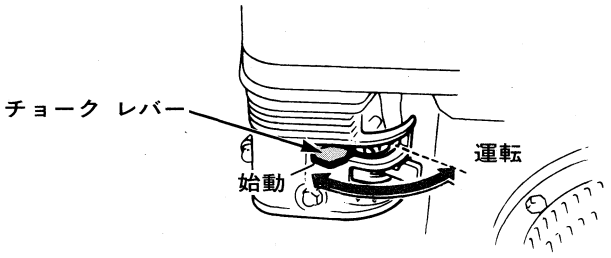
エンジン回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



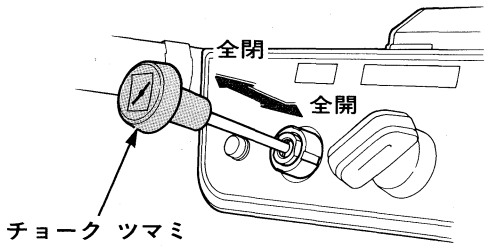
チョーク レバー、チョーク ツマミ

エンジンが冷えている時、またエンジンがかかりにくい時に操作します。

(K,L,LB タイプ)



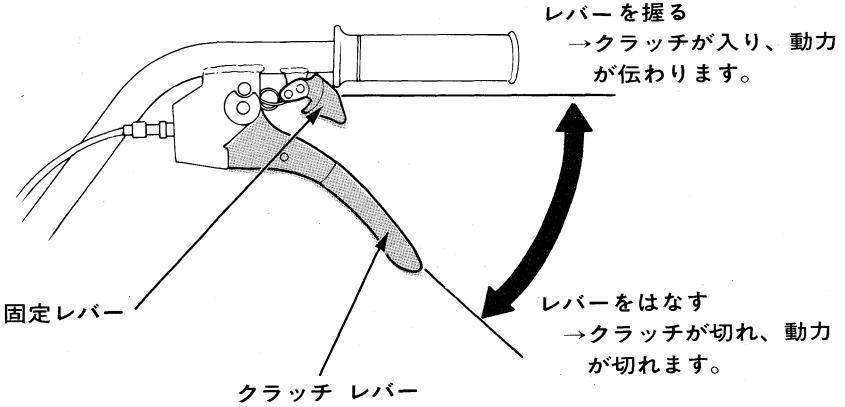
(KS,LS,LBS タイプ)



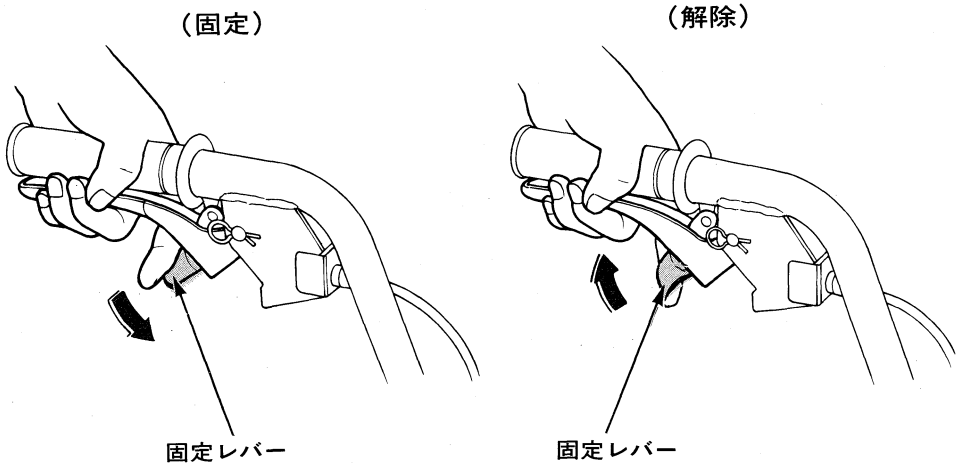
主クラッチ レバー

クラッチは、車軸への動力を断接する装置です。

(K,KS タイプ)



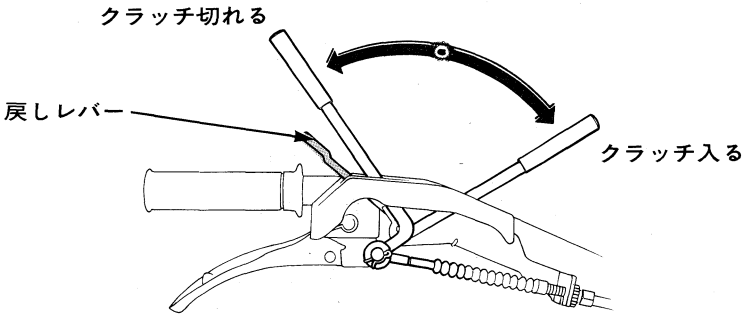
- クラッチ レバーを握って固定レバーを指で押すとクラッチ レバーは固定されます。
- 解除するときは、固定レバーを手前に引き、クラッチ レバーをはなします。



(L,LB,LS,LBS タイプ)

主クラッチ レバーを手前に引くと動力が切れ、前方に倒すと動力が伝わります。

戻しレバーを指で押し下げることにより、ハンドルを握ったまま動力を切ることができます。

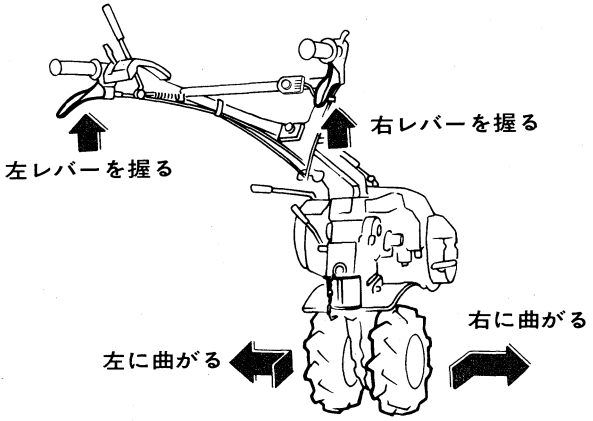


操向クラッチ レバー

(L,LB,LS,LBS タイプ)

方向を変えるときに使います。

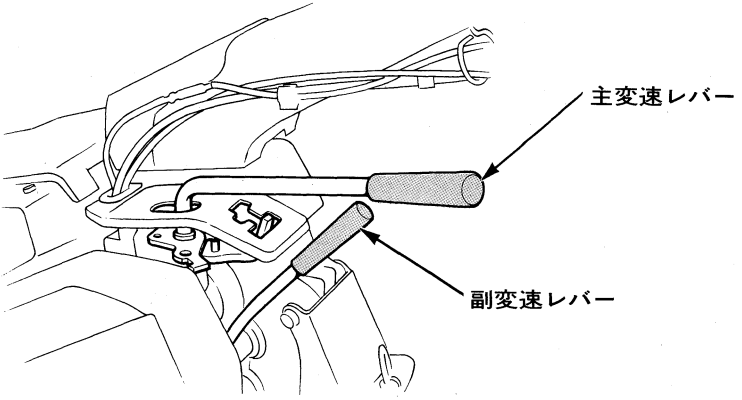
レバーを握ると握った方向に曲ります。



変速レバー

本機の速度を変える時に操作します。

変速は前進3段、後進1段ですが、副変速レバーを"低""高"に切りかえることによって前進6段、後進2段となります。

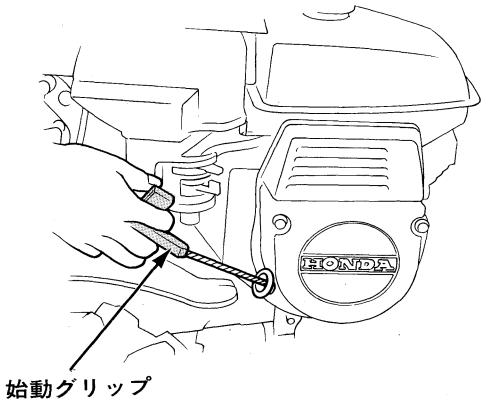


始動グリップ

エンジンを始動する時に操作します。

(KS,LS,LBS タイプ)

セル スタータが使えない場合、エンジンを始動するときに操作します。

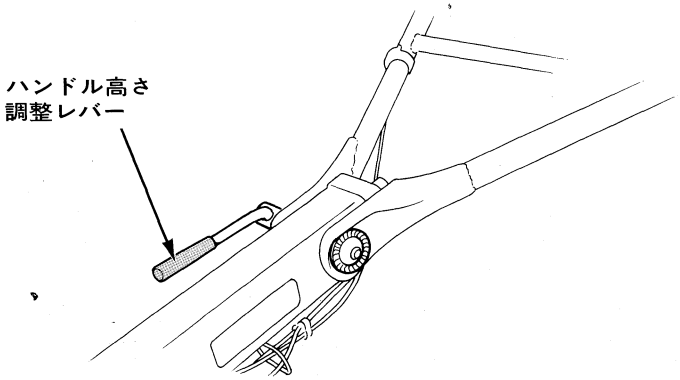


ハンドル高さ調整レバー

ハンドルの高さを、作業内容や運転者の身長に合わせるレバーです。

《調整のしかた》

調整レバーを回してゆるめ、ハンドルを任意の高さに合わせてレバーを固定します。

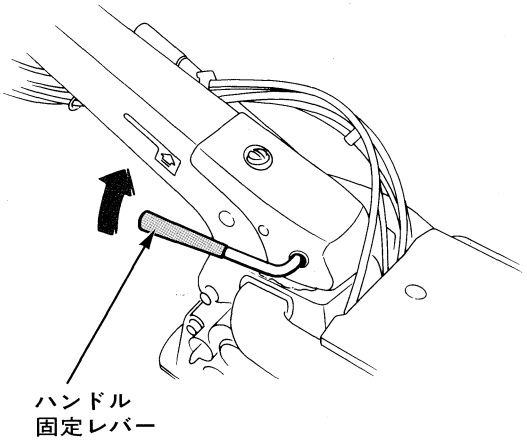


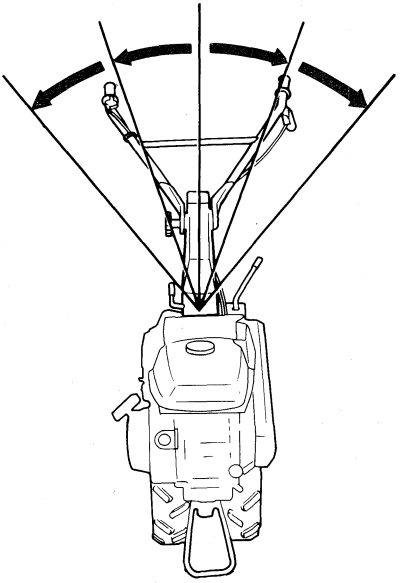
ハンドル固定レバー

ハンドルの角度調整、反転時に操作します。

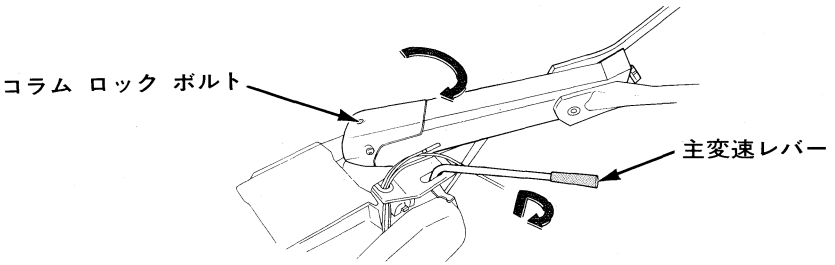
《角度調整のしかた》

ハンドル固定レバーを軽く引き上げて行ないます。角度は左右それぞれ2段階に選ぶことができます。





ハンドルを左に角度調整した時は、主変速レバーも左へ角度を変えてください。主変速レバーを引き上げ、時計方向に回して固定します。



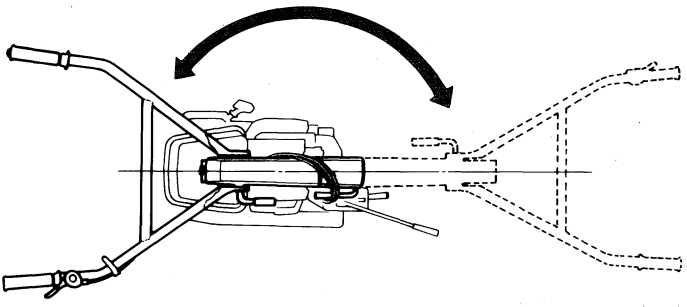
注意

・反転を頻繁に行なわない場合、又はスキ耕などの重負荷作業時には、コラム ロック ボルトはいっぱいに締め込んだ状態でご使用ください。

《反転のしかた》

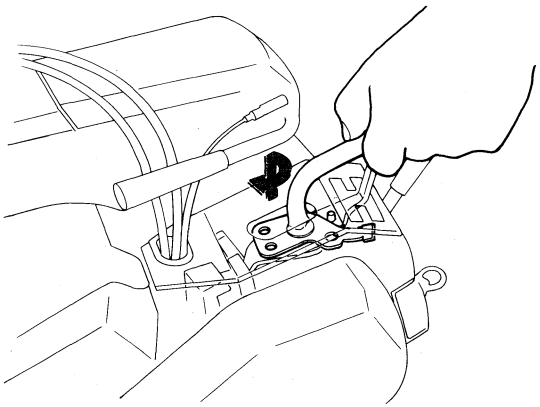
1.ハンドル固定レバーを軽く引き上げ、ワイヤ類がひっかからないように注意しながらハンドルを反時計方向に回します。

2.機体の中心にハンドルを合わせ、固定レバーが所定の位置で固定されたことを確認します。



注意　・ハンドルの反転は、必ずエンジンを停止して行なってください。

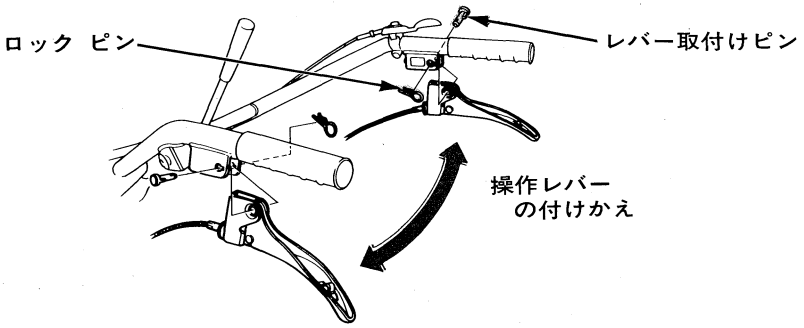
3.主変速レバーを持ち上げて時計方向にまわします。
（副変速レバーの向きは変わりません。）



4.ハンドルを反転すると操向クラッチ レバーが左右反対になります。

(L,LB,LS,LBSタイプ)

ロック ピンとレバー取り付けピンを外し、左右の操向クラッチ レバーを付けかえます。

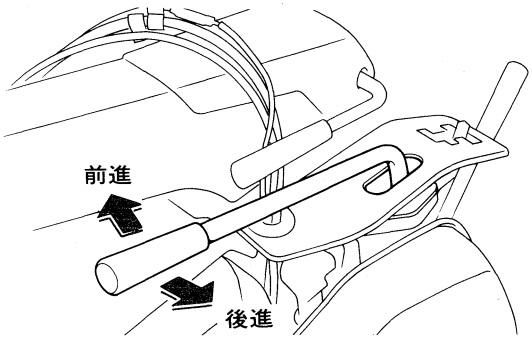


注意

・ハンドル反転時、操向クラッチ レバーを左右付けかえてあるかどうか必ず確認してください。(L,LB,LS,LBS タイプ)
付けかえないと旋回方向が反対になり危険です。
・ハンドルを元に戻した時には必ず変速レバーも元に戻してください。

5.ハンドル反転後、各レバー、ピン類の取り付けが完全であるか確認します。

ハンドルを反転すると変速は前進2段、後進2段となります。



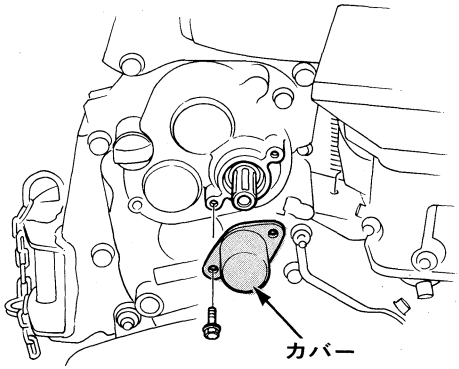
注意

・2速、3速はチェンジができない構造となっているので、無理に操作しないでください。

動力取り出し軸

動力取り出し軸は定置作業、動噴、草刈、中耕ロータリー等に使います。
動力の取り出しは 6 mm ボルト 2 本を外し、動力取り出し軸カバーを取り外して行ないます。

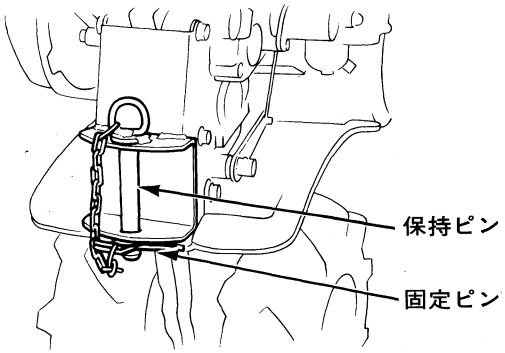
注意　・動力取り出し軸を使わない時は必ずカバーを取り付けてください。



副変速レバーを操作することにより 2 通りの回転速度が選べます。

ヒッチ ボックス(作業機取り付け部)

作業機を取り付けるところです。
取り付けは保持ピンを差し込みます。保持ピンは固定ピンで固定します。



車輪取り付けピン

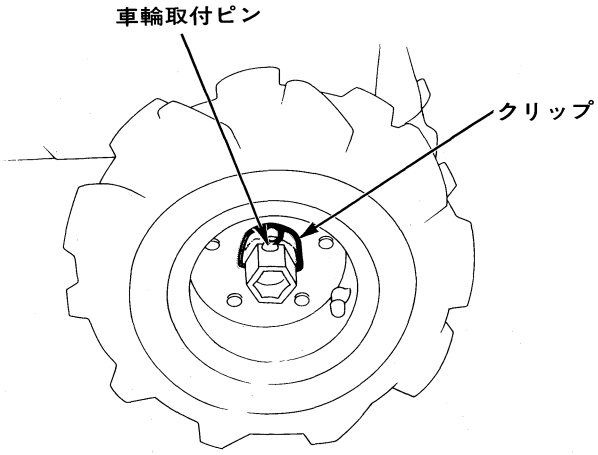
車輪の取り付け、取り外し、車輪幅の調整を行なう時に使います。

《調整のしかた》

クリップ、車輪取り付けピンを外し、任意の穴へさしかえます。

注意

・車輪を取り外す時は、２人で行なうか棒等で支え転倒に注意してください。



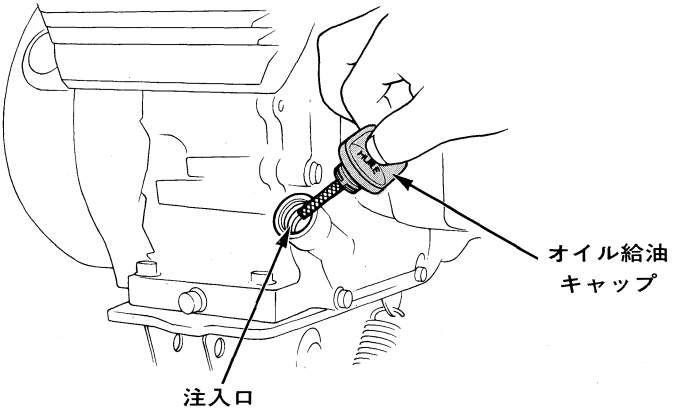
エンジンをかける前に点検しましょう

★点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行なってください。

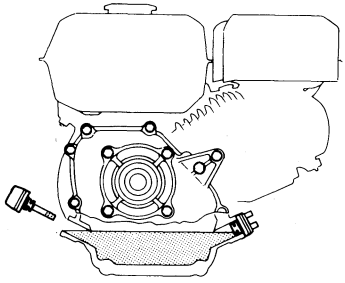
エンジン オイルの点検

点検

オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



補給



・少ない時には新しいオイルを口元まで補給します。

・汚れや変色が著しい場合は交換してください(交換時期、方法は 49 頁参照)。

・指定エンジン オイル：ホンダ純正ウルトラ ネオ汎用機用(SAE 30)、ウルトラ－U(2 輪車用)または API 分類 SE 級相当のエンジン オイル

注意

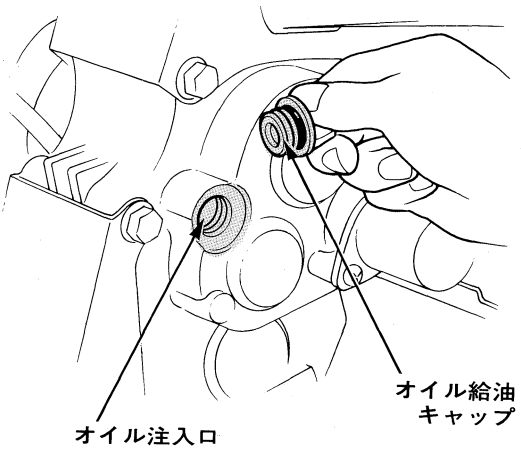
・極寒地域で使用する場合は、ウルトラ－U(2 輪車用) または API 分類 SE 級相当の SAEIOW－30 エンジン オイルをご使用ください。

・キャップは確実に締め付けてください。締め付けがゆるいとオイルがもれることがあります。

変速機オイルの点検

点検

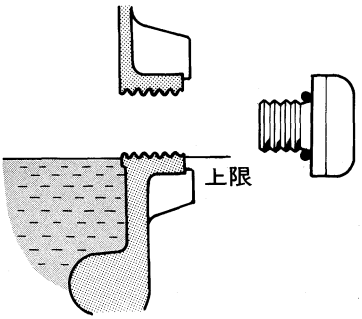
オイル給油キヤップを外し、口元までオイルがあるか点検します。
すくない場合は補給してください。



補給

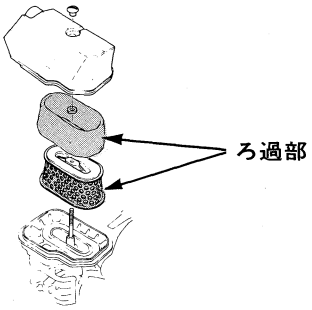
使用オイル：新しいエンジン オイル

・給油キヤップを外し、口元まで補給してください。
・補給後、キヤップは完全に締め付けてください。



空気清浄器(エア クリーナ)の点検

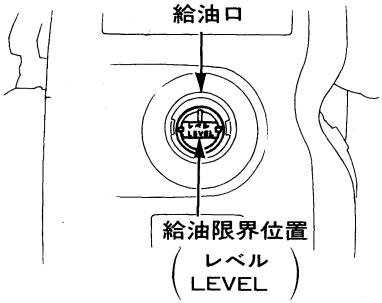
空気清浄器カバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。汚れている場合は清掃してください。
(清掃時期、方法は 51 頁参照)



ガソリンの点検

点検

燃料給油キヤップを外し、給油口の給油限界位置 (LEVEL)までガソリンがあるか点検します。すくない場合は補給してください。



補給

使用ガソリン：無鉛（レギュラーガソリン）

タンク容量：3.0 ℓ

・キヤップを外し、給油口の給油限界位置（レベル）まで補給してください。
・キヤップは完全にはめ込みいっぱいにまわしてください。

注意
・火気厳禁。
・必ずエンジンをとめて補給してください。
・本機に貼られている注意ステッカーにしたがってください。

タイヤ空気圧の点検

点検

空気圧が正規か確認してください。空気圧が高過ぎるとけん引力が不足し、低すぎるとタイヤの寿命を短かくします。

空気圧が正規でない場合は必ず正規の空気圧にしてください。

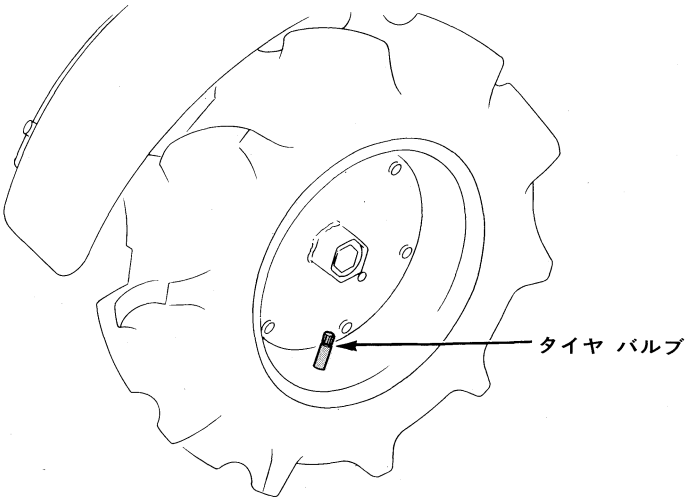
補給

バルブ キヤップを取外し、タイヤ バルブより空気を注入する。

タイヤ サイズ：3.50－5(LB,LBS を除く)

4.00－7(LB,LBS のみ)

標 準 空 気 圧：1.2 kg／cm²



バッテリの補充電(KS,LS,LBS タイプのみ)

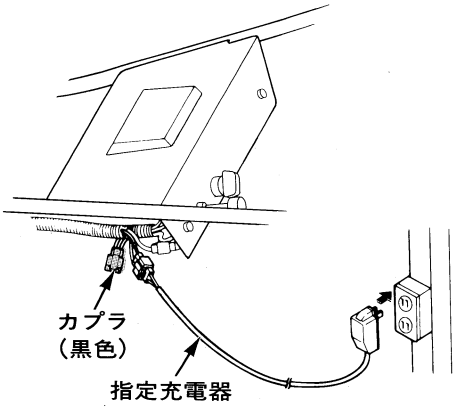
長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は補充電を行なってください。
保管中、6ヵ月に一度指定された充電器または市販の充電器(最大充電電流3A以下のもの)で補充電を行なってください。

補充電のしかた

●指定充電器

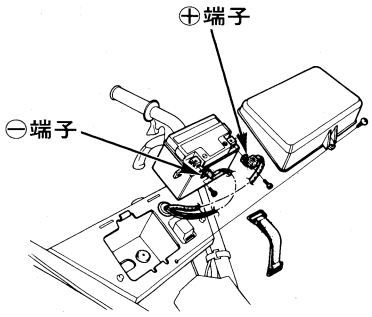
部品名：バッテリ チャージ アッシ
部番：31670－737－711

①カプラ(黒色)を取り外してください。
②充電器のリード線カプラをオス側カプラに接続してください。
③充電時間：24時間



●市販充電器

○バッテリの配線は正確に行なってください。接続時は⊕側から接続し、はずす時は⊖側からはずしてください。
○充電時間：0.4Aで約5時間(標準)
○端子のゆるみ、腐触は接触不良の原因となります。ゆるんでいる時は確実に締付けてください。端子に白い粉がついてる場合は、お湯で清掃し、グリースを塗布してください。



注意

・バッテリを扱う時はショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
・バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分は浸されますので十分注意してください。万一、付着した時は、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診察をただちに受けてください。

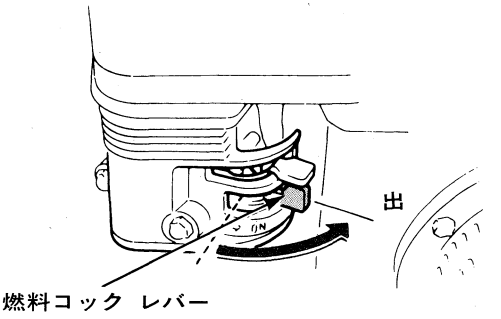
エンジンのかけかた

★主クラッチ レバー"切"変速レバー"中立"になっているか確認してからエンジンをかけてください。

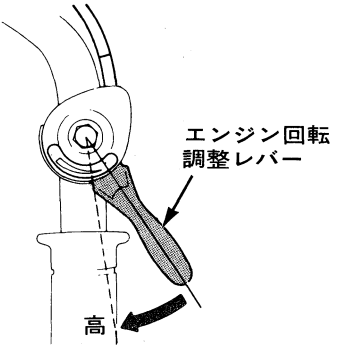
(K,L,LB タイプ)

(KS,LS,LBS タイプ)バッテリ上がり、ヒューズ切れ等によりセル スタータが使えない場合

1.燃料コック レバーを**"出"**に合わせます。

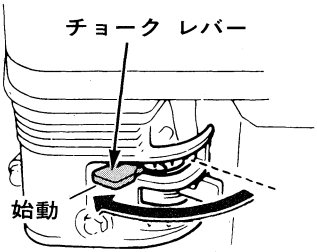


2.エンジン回転調整レバーを**"高"**方向に少しまわします。



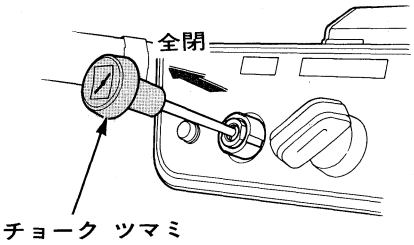
3.寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョーク レバーを**"始動"**に合わせます。

(K,L,LB タイプ)



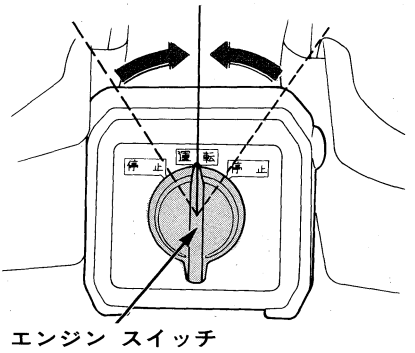
寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョーク ツマミを一杯に引きます。

(KS,LS,LBS タイプ)

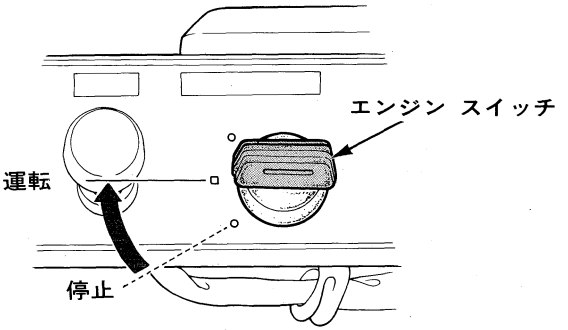


4.エンジン スイッチを**"運転"**に合わせます。

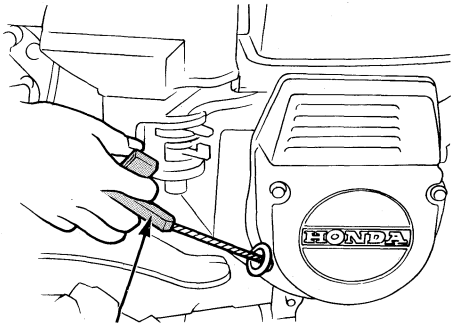
(K,L,LB タイプ)



(KS,LS,LBS タイプ)



5.始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。



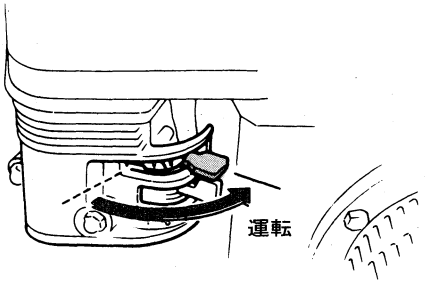
注意

・グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置を破損することがあります。
・運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

始　動

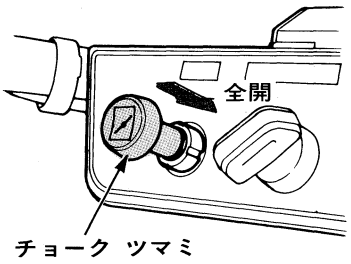
6. 2 ～ 3 分間暖機運転を行ないます。チョーク レバーを**"始動"**にした時はエンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に**"運転"**の方向に戻します。

（K,L,LBタイプ）



2 ～ 3 分間暖機運転を行ないます。チョーク ツマミを引いた時はエンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に戻して**"全開"**の位置にします。

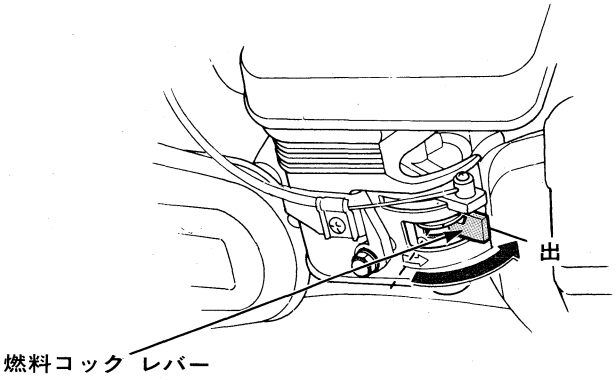
（KS,LS,LBSタイプ）



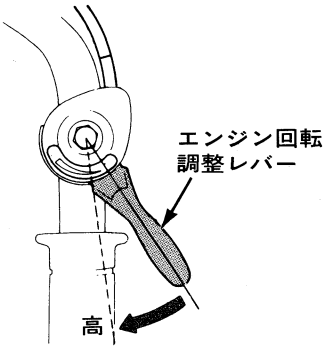
★主クラッチ レバー"切"変速レバー"中立"になっているか確認してからエンジンをかけてください。

セル スタータを使用する場合(KS,LS,LBS タイプ)

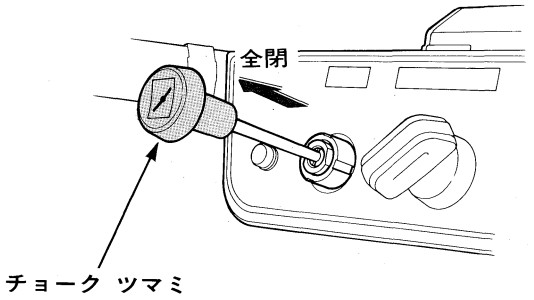
1.燃料コック レバーを"出"に合わせます。



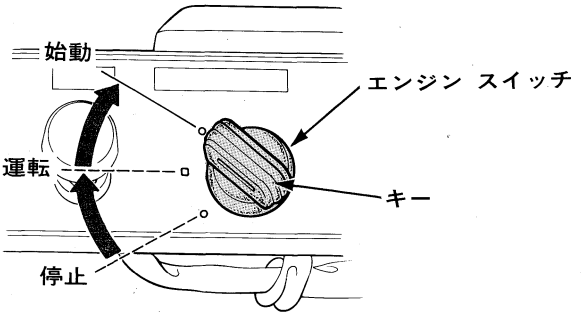
2.エンジン回転調整レバーを"高"方向に少しまわします。



3.寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョーク ツマミを一杯に引きます。



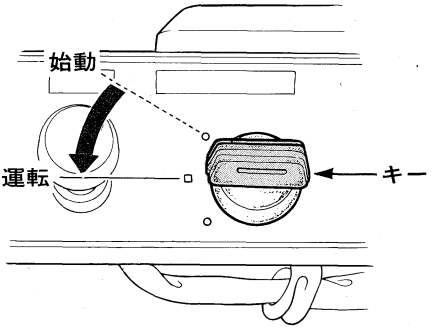
4.主クラッチ レバーが**"切"**の状態でキーを差し込み**"始動"**の位置まで回わします。



注意

- (KS,LS,LBS タイプ)
- エンジン始動時、主クラッチ レバーが"切"の状態でないとエンジンが始動しない機構になっています。
- －5℃以下の低温地域ではセル始動ができない場合があります。この場合はリコイル スタータで始動してください。

5.エンジンが始動したら、キーを"**運転**"の位置にもどします。

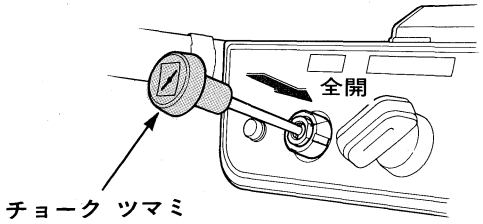


注意　エンジンが始動した後、キーを"始動"の位置にしたままですと、始動装置を損傷させる原因となります。

始　　動

6. 2 ～ 3 分間暖機運転を行ないます。

チョーク ツマミを引いた時はエンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に戻して"全開"の位置にしてください。



運転操作のしかた

★安全な作業を行なうために、十分に理解して行なってください。

"変速"

1.変速レバー

変速表の適応作業を目安に変速位置を選びます。

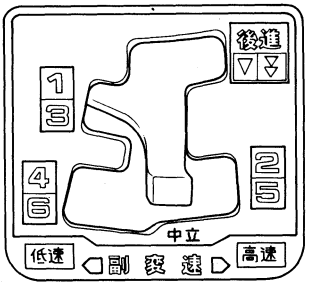
速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上り等に弊害が出ます。

変速の要領

1)変速レバーは、必ず主クラッチを切ってから操作します。

2)変速レバーが作動しにくい時にはいったん"中立"に戻し、主クラッチを入れて少し動かし、主クラッチを切りもう一度操作します。

3)後進の場合、特に足元に十分注意し低速で運転します。



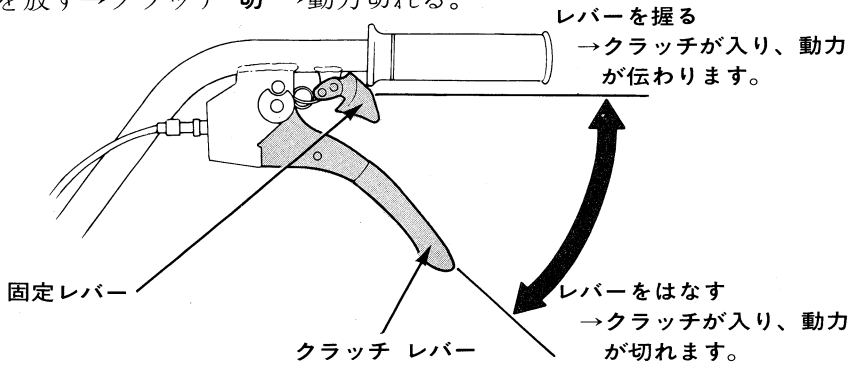
変速表

副変速	主変速位置	車軸回転数 F 410/F 510	適応作業
低速	1	15.9	ロータリ
	2	25.2	ロータリ、堀取り
	4	45.0	培土、カルチ、けん引(消毒機等)
	後進▽	15.5	ロータリ
高速	3	31.8	培土、カルチ、けん引マルチ
	5	50.6	培土、カルチ、けん引(消毒機等)
	6	90.6	ロータ、代かき
	後進▽▽	31.0	モアー、ロータリ

"運転"

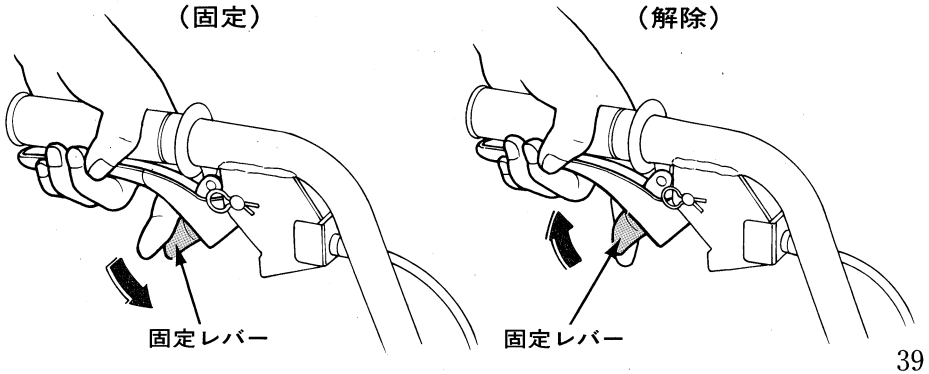
2.主クラッチ レバー
(K,KS タイプ)

主クラッチ レバーの操作は、静か(スムーズ)に行ないましょう。
急激な操作を行なうと機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。
レバーを握る→クラッチ"入"→動力伝わる。
レバーを放す→クラッチ"切"→動力切れる。



- クラッチ レバーを握って固定レバーを人差し指で押すとクラッチ レバーは固定されます。
- 解除する時は、固定レバーを手前に引き、クラッチ レバーをはなします。

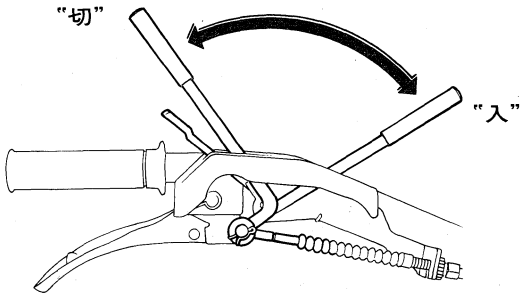
注意 ・固定レバーの使用は、片手運転や長時間運転するときのみ使用してください。



(L,LB,LS,LBS タイプ)

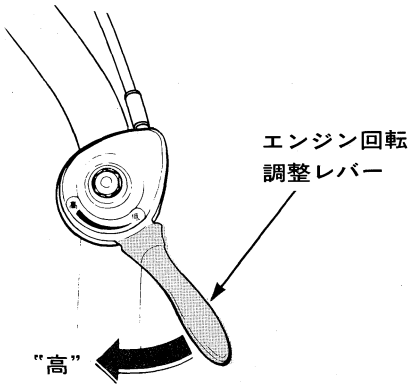
レバーを引く—クラッチ"切"— 動力切れる。

レバーを倒す—クラッチ"入"— 動力伝わる。



3.エンジン回転調整レバー

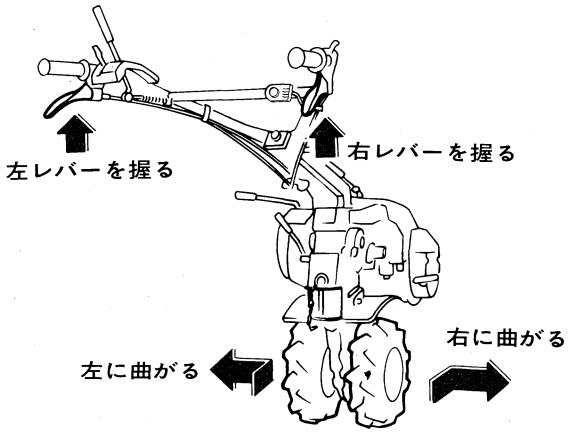
レバーを"高"方向にまわし、エンジン回転を上げます。



"旋　回"

4.操向クラッチ レバー(L,LB,LS,LBS タイプ)

旋回しようとする方向のレバーを握ると旋回します。



注意

- 高速運転時、操向クラッチ レバーを操作しないでください。
  高速時操作すると、本機が急旋回し、運転者が飛ばされることがあり大変危険です。
- 登り坂、下り坂では操向クラッチ レバーを操作しないでください。
  登り坂、下り坂で操向クラッチ レバーを操作すると思いがけない方向に急旋回したり、急降下したりして大変危険です。
- ハンドルを反転した時には、操向クラッチ レバーをつけかえてください。

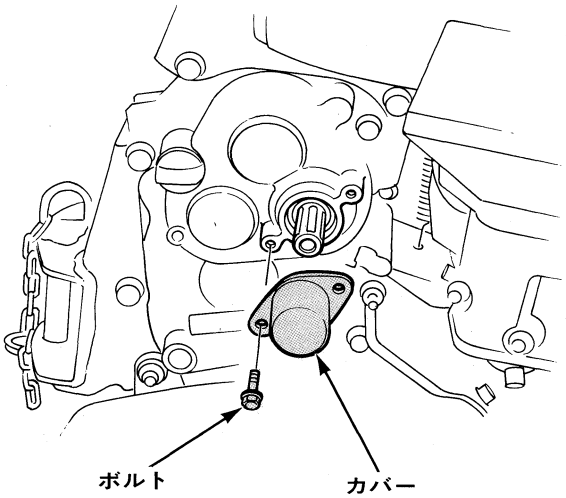
"動力取り出し"

5.動力取り出し軸の使いかた

・動力は、ミッション ケースの右側より取り出します。

1.ボルト 2 本を外し、動力取り出し軸カバーを取り外します。

2.プーリを取り付け、ボルトで締め付けます。



注意

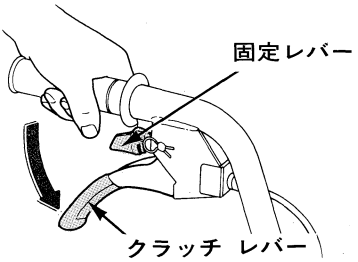
・動力取り出しカバーは、取り出し軸を使わない時は常に取り付けておいてください。
カバーを付けないでおくと衣類等が巻きつくことがあり危険です。
・本機のスタンドを立て、傾かないようしっかりと固定してください。
・変速レバーを中立にしてください。中立にしないと本機が動き危険です。

エンジンのとめかた

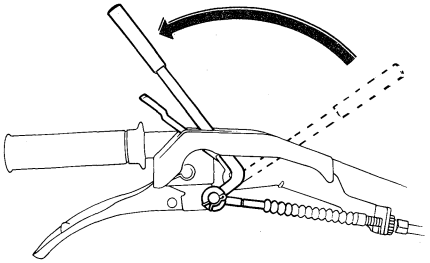
1.主クラッチ レバーを"**切**", 変速レバーを"**中立**"にします。

(K,KS タイプ)

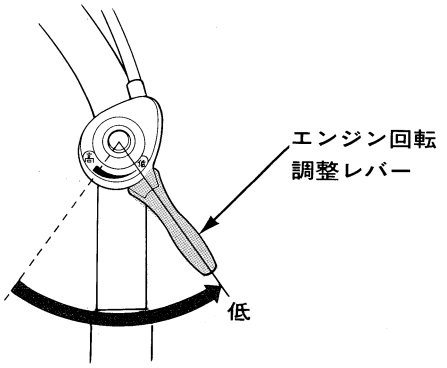
クラッチ レバーが固定されている場合は固定レバーを引いてからクラッチ レバーをはなして"**切**"にします。



(L,LB,LS,LBS タイプ)

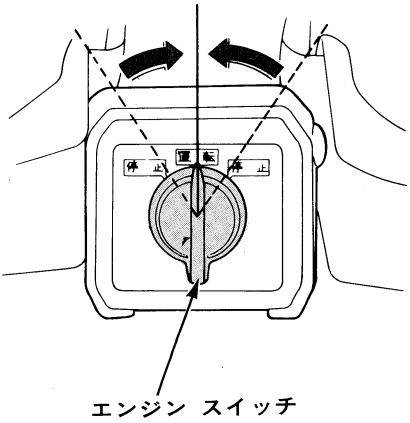


2.エンジン回転調整レバーを**"低"**の位置に戻します。

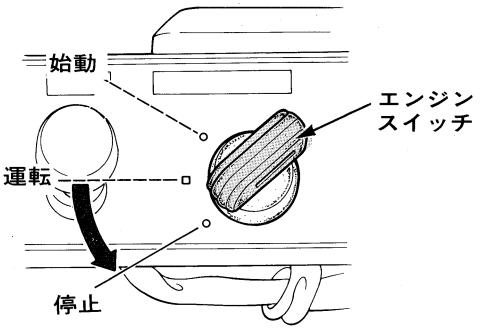


3.エンジン回転調整レバーを戻し、エンジン スイッチを**"停止"**に合わせます。

（K,L,LB タイプ）

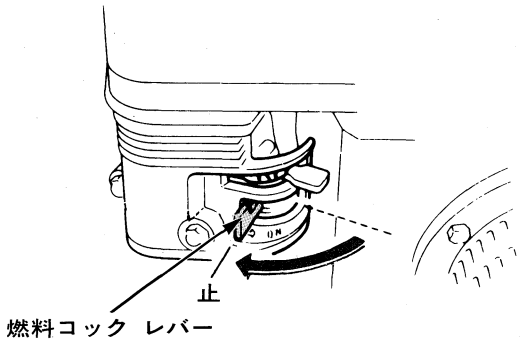


（KS,LS,LBS タイプ）



（本機から離れる時は、必ずエンジン スイッチ キーを抜いてください。）

4.燃料コック レバーを"**止**"に合わせます。

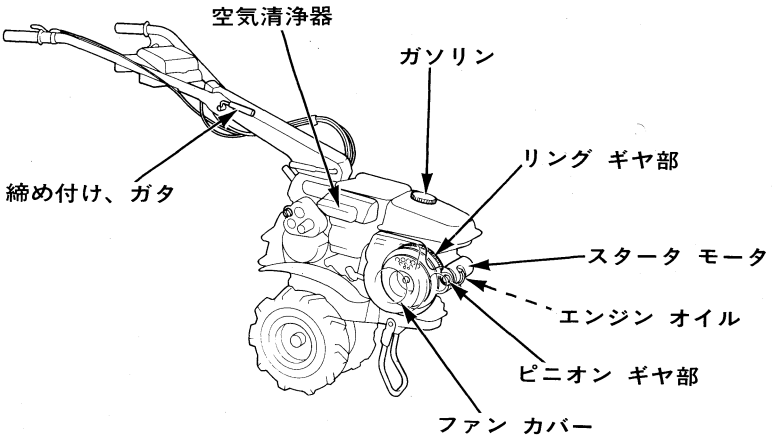


定期手入れを行ないましょう

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行なってください。

- エンジン オイル……規定量入っているか。洩れはないか。
- 変速機オイル……規定量入っているか。洩れはないか。
- 空気清浄器……汚れていないか。
- ファン カバー(KS,LS,LBS タイプ)……泥がつまっていないか。
  - ○ファン カバーの下部が水につかる様な、深い水田での運転は始動モータ作動不良の原因となりますので避けてください。
    (泥がつまってセル モータがまわらなくなる事があります。)
  - ○万一ファン カバー内に泥水が入った場合は、必ず水洗いを行ってください。
  - ○水洗いのしかた(ファン カバーを取外し、泥水を十分洗い流してください。)
    1)スタータ モータのピニオン ギヤ部
    2)フライ ホイールのリング ギヤ部
    3)ファン カバー、スタータ モータ周辺
    〈注意〉・水洗い後、ギヤ部にうすく油を塗布してください。
    ・スタータ モータは防水型となっていますが、大量の水や強いスチームでの水洗いは避けてください。
- ガソリン……残量
- 異常箇所……前日悪かった所
- 各部の締付け……ハンドル高さ調整レバーにゆるみ、がたはないか。
- その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検

お買いあげいただきましたティラーをいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時間		仕業点検	初回 20時間目	50時間 運転毎	100時間 運転毎	300時間 運転毎又は1年に1回
エンジン オイル 〈注1〉	点検	○				
	交換		○		○	
変速機オイル 〈注1〉	点検	○				
空気清浄器	点検	○				
	清掃			○ 〈注2〉		
燃料ろ過カップ	清掃				○	
点火プラグ	清掃				○	
	調整					
吸入、排気弁間隙	点検					○ 〈注3〉
	調整					
燃料タンク、燃料ろ過綱	清掃					○ 〈注3〉
主クラッチ ワイヤ	調整					○
操向クラッチ ワイヤ(K,KSタイプを除く)	調整					○
エンジン回転調整ワイヤ	調整					○
駆動ベルト	調整		○		○	
燃料チューブ	交換	3 年 毎 〈注3〉				

〈注1〉 エンジン オイル……稼動期前にも必ず交換してください。
変速機オイル……稼動期前に汚れ具合を確認し、汚れがひどい場合は交換してください。

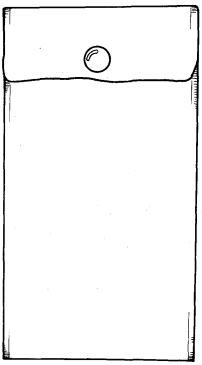
〈注2〉 ほこりの多い作業の時は10時間毎または1日1回清掃する。

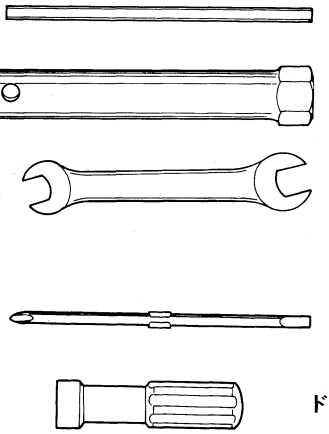
〈注3〉 これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店または最寄りのホンダサービスの各地区センターへお申しつけください。

携帯工具

工具は、点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。

ツール バック





エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：20 時間目、以後：100 時間運転毎。また、稼動期前には必ず交換してください。

《指定エンジン オイル》

ホンダ純正ウルトラ ネオ汎用機用(SAE 30)、ウルトラ-U(2 輪車用)またはAPI 分類 SE 級相当のエンジン オイル。

注意
・極寒地域で使用する場合は、ウルトラ-U(2 輪車用)または API 分類 SE 級相当の SAEIOW—30 エンジン オイルをご使用ください。

《規定量》**0.6 ℓ**

《交換のしかた》

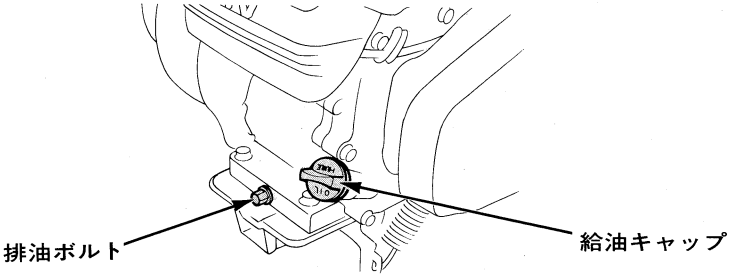
1.オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。エンジンが暖かいときに行なうと、エンジン内に残る量が少なく早く抜けます。

2.排油ボルトをきれいに洗い、シリンダ バレルに確実に締め付けます。

3.注入口の口元まで新しいオイルを注入します。

4.注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締め付けます。

・オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行ないましょう。



注意
・エンジン停止直後は、エンジン本体、油温が高くなっていますので、やけどをしないよう注意してください。
・オイル給油時にはエンジンを水平に保つように注意してください。

変速機オイルの交換

変速機オイルが汚れていると変速機各部の摩耗を早めます。

《交換時期》

稼動期前に汚れ具合を確認し、汚れがひどい時には交換してください。

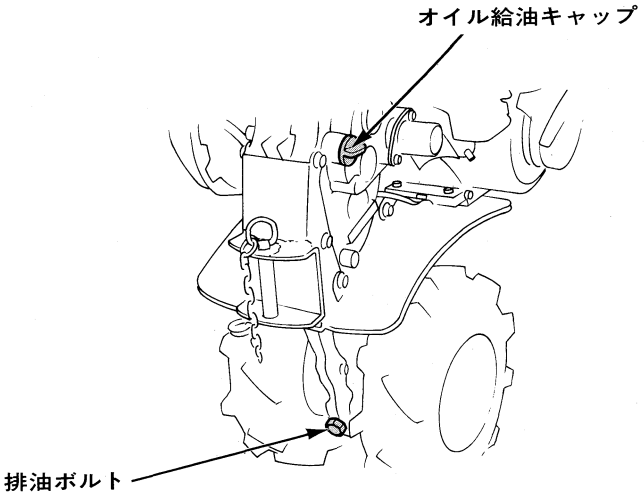
《使用オイル》

新しいエンジン オイル

《規定量》 2.2 ℓ

1.オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。

2.排油ボルトをきれいに洗い、変速機に確実に締め付けます。



3.注入口の口元まで新しいオイルを注入します。

4.注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締め付けてください。

空気清浄器(エア クリーナ)の清掃

空気清浄器が目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時期》

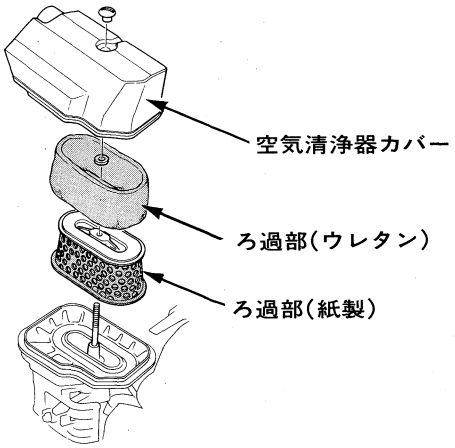
清掃：50 時間運転毎

ほこりの多い場所で使用した場合は 10 時間毎または 1 日 1 回清掃してください。

1.締め付けナットをゆるめ、空気清浄器カバーを取り外します。

2.ウレタンのろ過部は洗油で洗い、よく絞って乾かします。エンジン オイルに浸した後固く絞ってから取り付けます。

3.紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。



注意

- 火気厳禁
- 空気清浄器カバーの締め付けは確実に行なってください。締め付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- 空気清浄器カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取り付け不良をすると、エンジンに悪影響を与える原因になります。

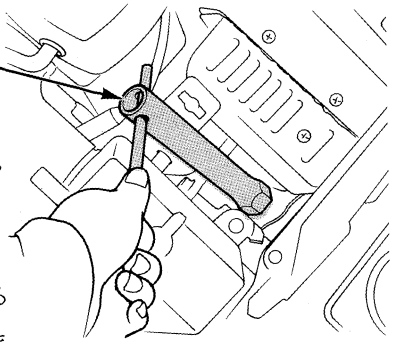
点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、火花すきまが不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》

100 時間運転毎

使用工具 ・プラグ レンチ ・ハンドル



《清　掃》

1.プラグ レンチで点火プラグを取り外します。

2.プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはホンダサービスの各地区センターをご利用ください。

・プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。

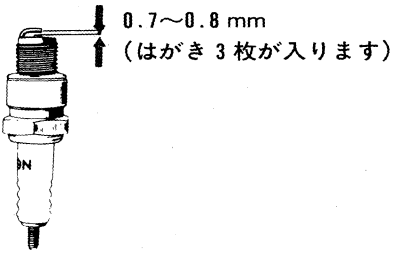
《調　整》

・側方電極をつめ、火花すきまを 0.7～0.8 mm に調整します。

《標準プラグ》

BP5ES（NGK）

W16EP—U（ND）



注意

・エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。

・プラグの取り付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締め付けてください。

燃料ろ過カップの清掃

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

《清掃時期》

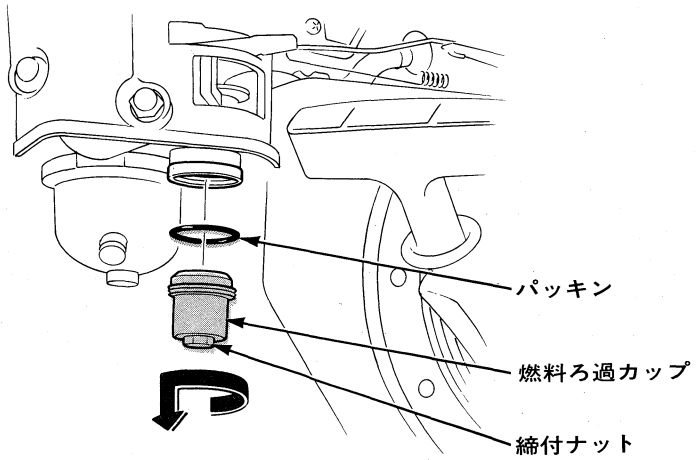
100 時間運転毎

1.燃料コック レバーを"**止**"にします。

2.締め付けナットをゆるめ燃料ろ過カップを取り外します。

3.燃料ろ過カップを洗油でよく洗い底にたまったゴミや水を取り除く。

4.清掃後、ガソリン洩れのないよう締め付けナットを確実に締め付けてください。



注意 ・燃料ろ過カップ清掃中は火気厳禁。

エンジン回転調整ワイヤの調整

エンジン回転調整ワイヤの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

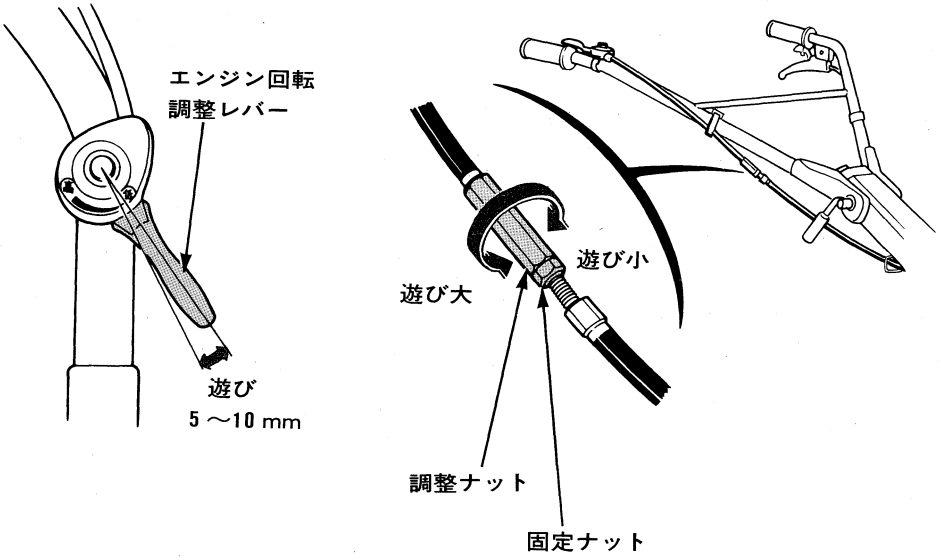
《調整時期》

300 時間運転毎または 1 年 1 回

1.エンジン回転調整レバーの遊びが、先端で 5 ～10 mm になるように調整します。

2.調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行なってください。

3.調整後、固定ナットを確実に締め付けてください。



主クラッチ ワイヤの調整

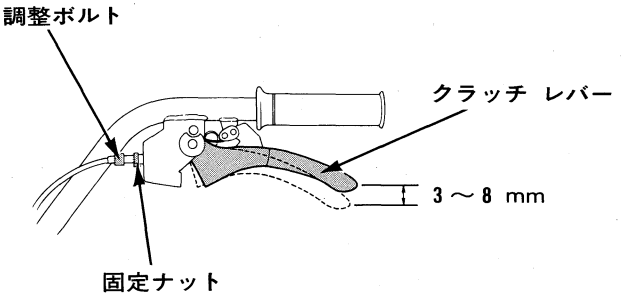
主クラッチ ワイヤの調整が完全でないとベルトがすべります。

《調整時期》

300 時間運転毎または 1 年 1 回

(K,KS タイプ)

1.クラッチ レバーの遊びがレバー先端で 3 ～ 8 mm になるように調整します。調整は固定ナットをゆるめ、調整ボルトで行ないます。



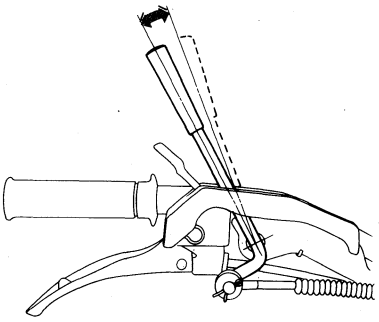
2.調整後、固定ナットを確実に締め付けてください。

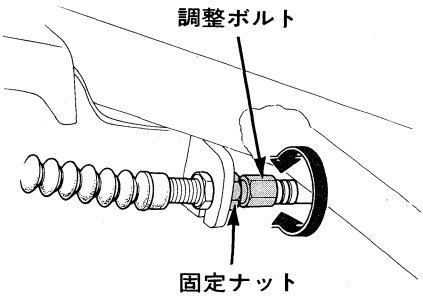
(L,LB,LS,LBS タイプ)

1.主クラッチ レバーを手前に戻した時、クラッチ**"切"**の状態でレバー先端の遊びが 25～30 mm になるように調整します。

2.調整は固定ナットをゆるめ、調整ボルトで行ないます。

3.調整後、固定ナットを確実に締め付けてください。





操向クラッチ ワイヤの調整(L,LB,LS,LBS タイプ)

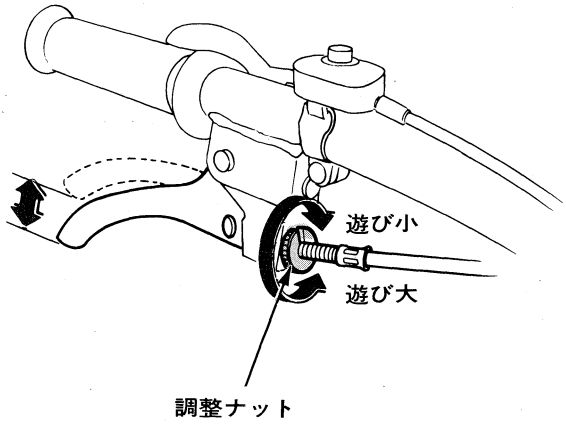
操向クラッチ ワイヤの調整が完全でないと操向クラッチの切れが悪くなります。

《調整時期》

300 時間運転毎または 1 年 1 回

1.操向クラッチ レバーの遊びがレバー先端で 7 ～10 mm になるように、左右同じ要領で調整します。

2.調整は、調整ナットをまわして行ないます。



駆動ベルトの調整

ベルトがすべると動力を損失するばかりでなく、ベルトの傷みがいちじるしく早くなります。

《調整時期》

初回：20 時間目　以後：100 時間運転毎

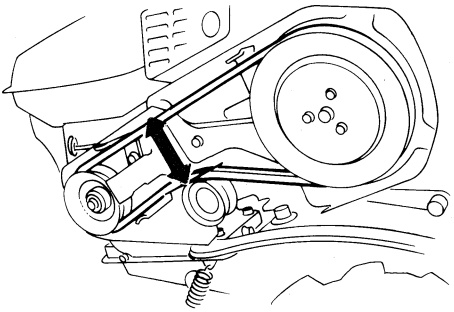
1.主クラッチ ワイヤを調整します。(P.55)

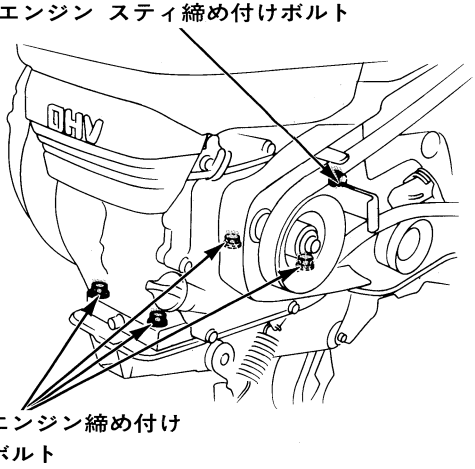
2.ベルト カバーを取り外します。

3.主クラッチ レバーを**"入"**にした状態で、テンショナ部のベルト間隔が 65～70 mm になるように調整します。

4.調整はエンジン スティ締め付けボルト、エンジン締め付けボルトをゆるめ、エンジンを前後に動かして行ないます。

5.調整後、ボルトは確実に締め付けてください。

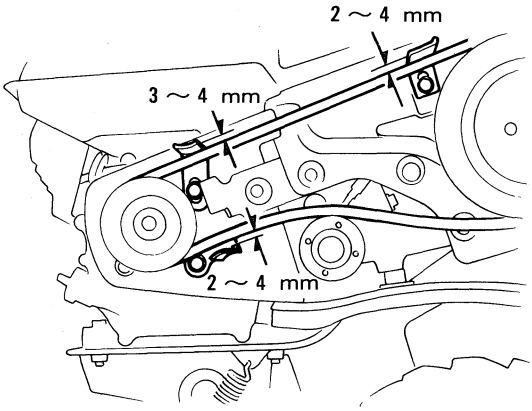




注意

・調整時エンジン側プーリーの面と変速機側プーリの面を合わせてください。合わせないとベルトが早く傷みます。

6.ベルトとベルト ストッパのすき間を図のように調整します。



7.調整はストッパ締め付けボルトをゆるめ、ストッパを上下に動かして行ないます。

8.調整後、ボルトは確実に締め付けてください。

9.ベルト カバーを取り付けます。

注意

・ベルト カバーを必ず取り付けてください。取り付けないで作業すると衣類が巻き込み、思わぬ事故を招くことがあります。

ヒューズについて

(KS,LS,LBS タイプ)

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れる恐れがあります。

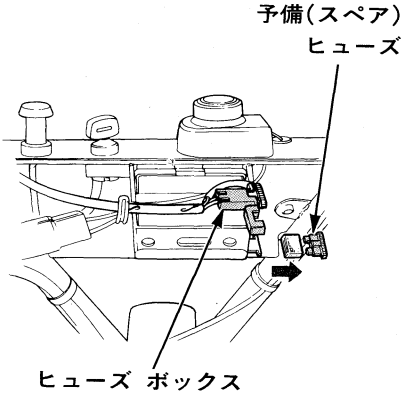
注意　・指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線コードなどを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

《交換のしかた》

①予備(スペア)ヒューズを図の方向に外します。

②ヒューズを図のように入れ替えます。

指定ヒューズ：１Ａ



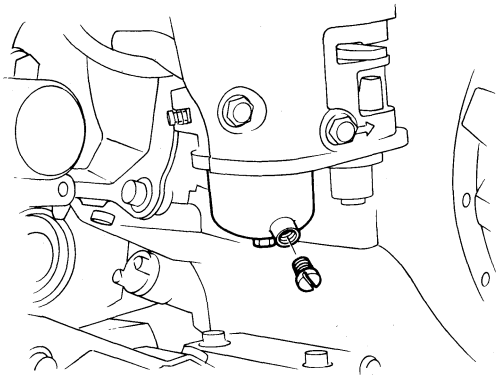
長期間使用しない時の手入れ

★長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行なってください。

1.ティラー各部の清掃を行ないます。

2.空気清浄器を清掃します。

3.ドレン ボルトをゆるめ、気化器内及び燃料タンク内のガソリンを抜きます。



4.ダストガード カバーを外し、始動装置部のホコリ、ゴミを除去します。

5.始動グリップを重くなるまで引きます。

（エンジン バルブが閉じ、燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。）

6.主クラッチ レバーを**"切"**にします。（ベルトの変形を防ぎます。）

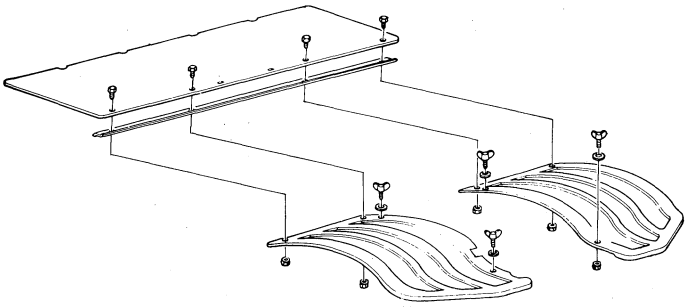
7.タイヤ空気圧を少し多くし（1.4～1.5 kg/cm²程度）、湿気、ホコリの少ないところにスタンドを立てて保管します。

注意

- ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあるので必ず本機は水平の状態で保管ください。
- 燃料を抜くときは火気厳禁。
- 風通しの良い場所で行なってください。
- 抜いた燃料の後始末は十分に行なってください。

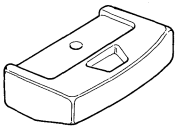
別　売　部　品

・マッド ガード

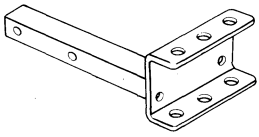


・サブ フェンダ

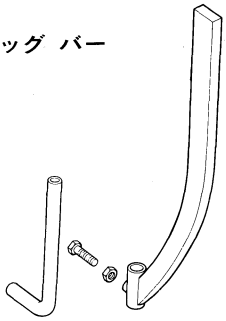
・フロント ウェイト

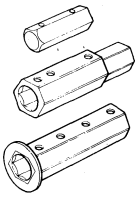


・フロント ヒッチ



・ドラッグ バー





・テンション シャフト A、B、C

故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことがティラーを長持ちさせる秘けつです。

始動しない時は次の点を確かめましょう。

●ガソリンはありますか？

●点火プラグから火花が出ますか？

次の点検をする前に、エンジンやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またはウエスで完全にふきとってから行なってください。

●プラグを取り外してプラグ キャップに取り付け、プラグをエンジンにアースさせ(感電を避けるためにプラグ キャップ以外には触れないでください。)、エンジン スイッチを**"運転"**の位置にして、始動グリップを強く引きます。この時プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。

注意　・この点検は風通しのよい場所で行なってください。

●始動方法は、取扱説明書通りですか？

主クラッチ、操向クラッチが作動しない時は次の点を確かめましょう。

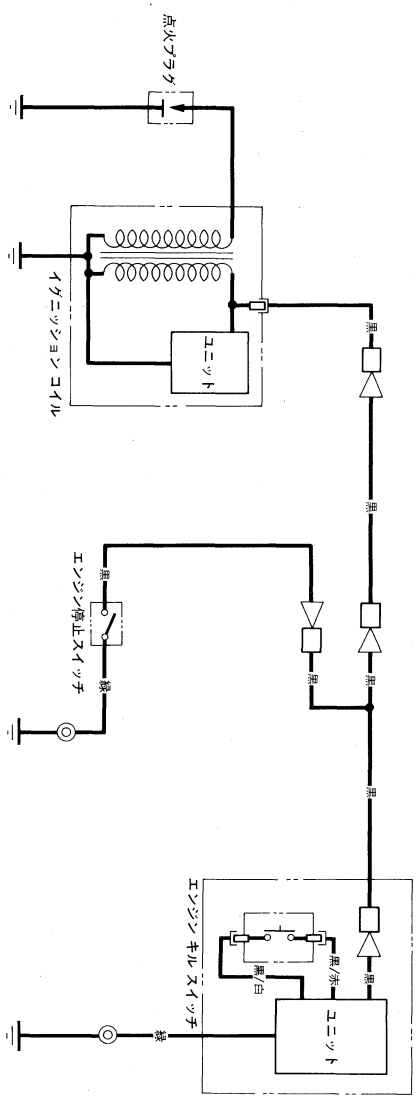
●クラッチ ワイヤの調整方法が取扱説明書通りですか？ (P.55、56)

少し時間をおいて
もう一度確かめましょう

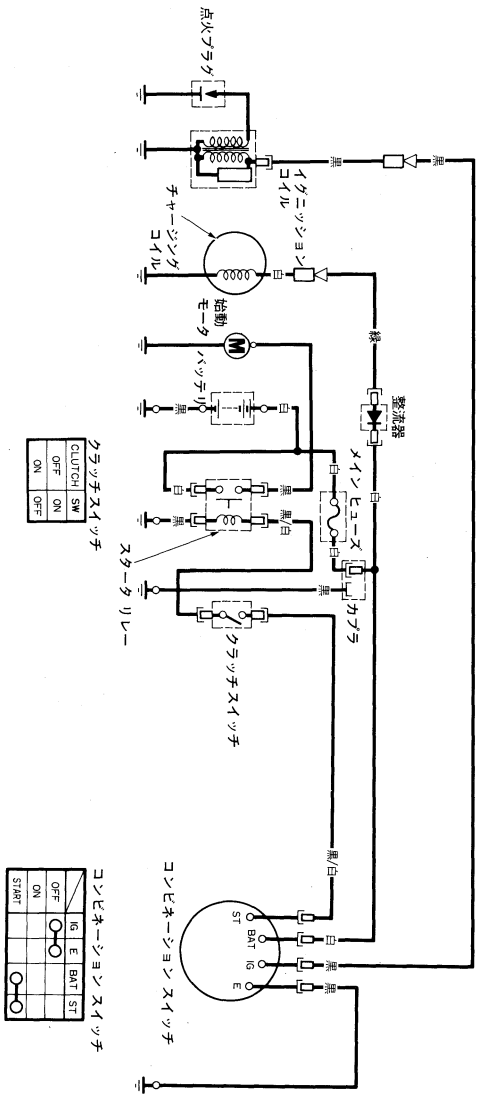
故障の修理
お買い上げ販売店または最寄りのホンダサービスの各地区センターへお申しつけ下さい。

配　線　図

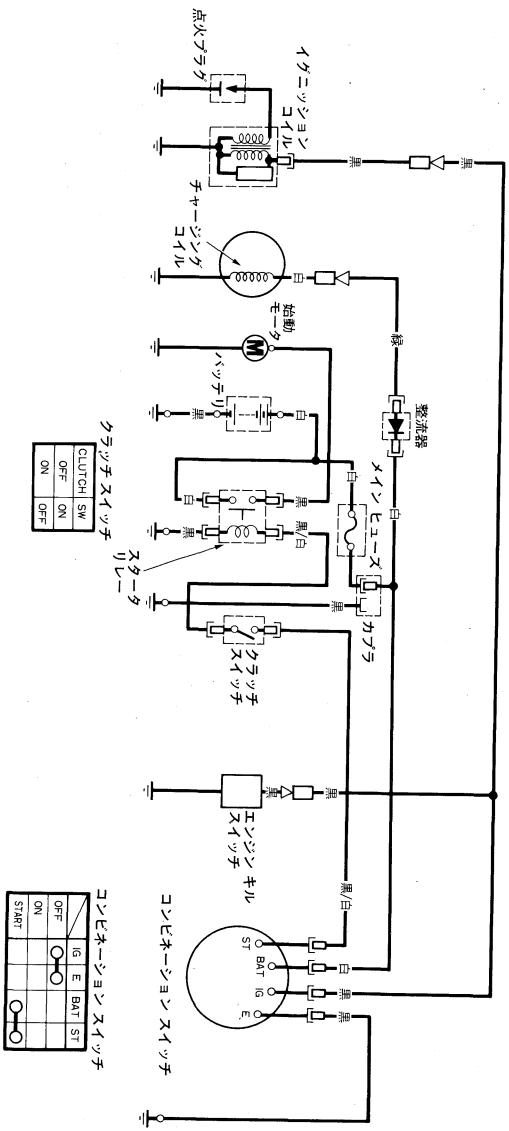
（F 410 L, F 510 K,L,LB タイプ）



(F 410 KS, F 510 KS)



(F 410 LS, F 510 LS,LBS)

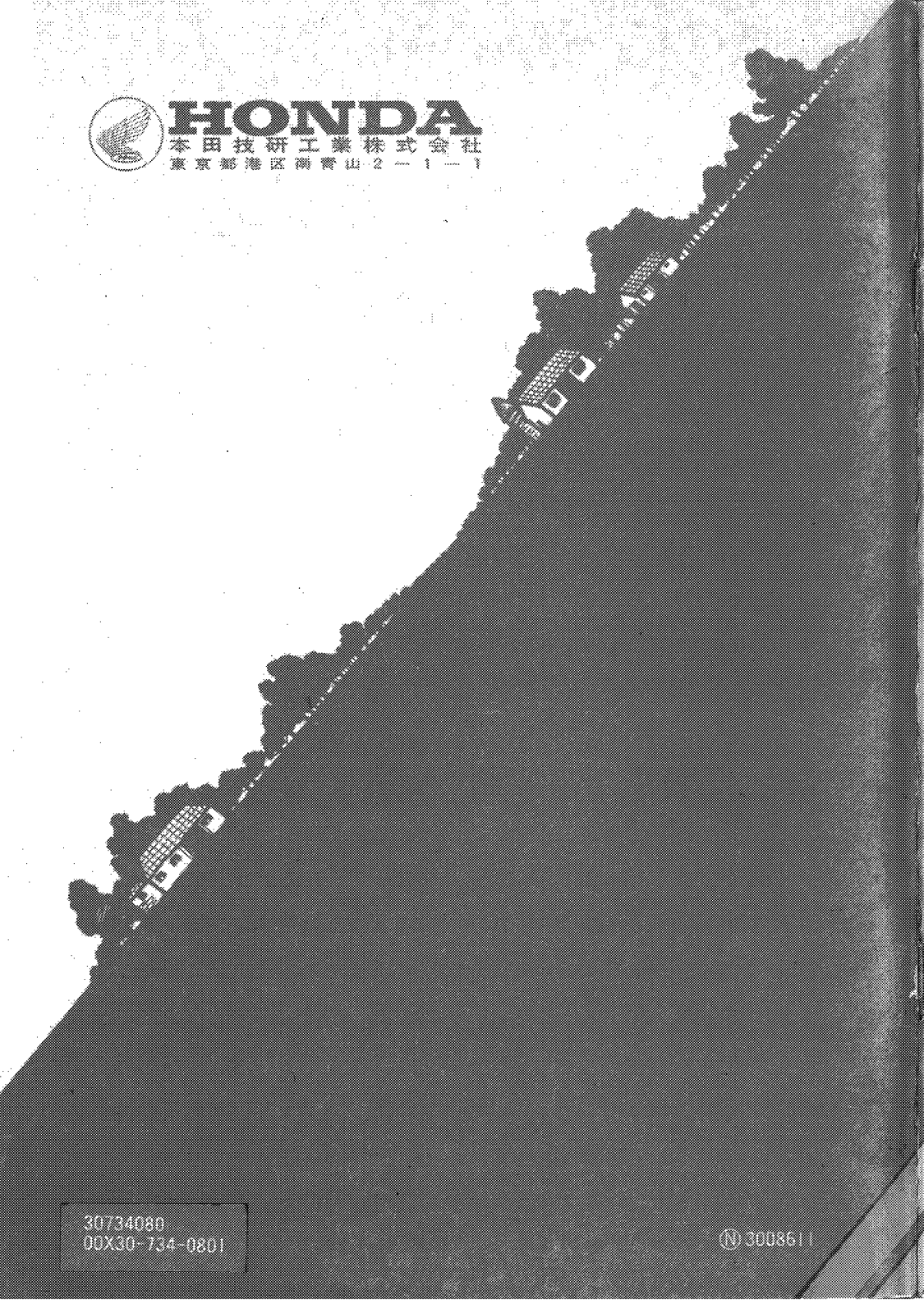


主　要　諸　元

名称		F 410	F 410 L	F 510	F 510 L	F 510 B
型式		F 410	F 410 L	F 510	F 510 L	F 510 B
区分		K	L	K	L	LB
機体寸法	全長 (mm)	1,450				
	全幅 (mm)	595				
	全高 (mm)	955	1,055	955	1,055	1,100
	輪距 (mm)	182				335
装備重量 (kg)		53	55	55	57	64
エンジン	名称	ホンダ GX 110		ホンダ GX 140		
	形式	空冷4サイクル1気筒 25° 傾斜ガソリン				
	総排気量 (cc)	107		144		
	出力/回転速度 (PS/rpm)	2.7/3,600		3.8/3,600		
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン				
	燃料タンク容量 (ℓ)	3.0				
	点火方式	トランジスタ マグネト点火				
	始動方式	リコイル スタータ				
タイヤ		3.50−5				4.00-7
主クラッチ方式		ベルト テンション				
変速段数	前進	6段 (副変速機使用)				
	後進	2段 (〃)				
PTO 回転速度 (rpm)		低速： 867 高速：1,739				
操向クラッチ方式		—	ボール式	—	ボール式	
安全鑑定適合番号		802012	802013	802014	802015	802018

名称		F 410	F 410 L	F 510	F 510 L	F 510 B
型式		F 410	F 410 L	F 510	F 510 L	F 510 B
区分		KS	LS	KS	LS	LBS
機体寸法	全長 (mm)	1,450				
	全幅 (mm)	595				
	全高 (mm)	955	1,055	955	1,055	1,100
	輪距 (mm)	182				335
装備重量 (kg)		58	60	60	62	68
エンジン	名称	ホンダ GX 110		ホンダ GX 140		
	形式	空冷4サイクル1気筒 25° 傾斜ガソリン				
	総排気量 (cc)	107		144		
	出力/回転速度 (PS/rpm)	2.7/3,600		3.8/3,600		
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン				
	燃料タンク容量 (ℓ)	3.0				
	点火方式	トランジスタ マグネト点火				
	始動方式	リコイル スタータ セル スタータ併用				
タイヤ		3.50−5				4.00-7
主クラッチ方式		ベルト テンション				
変速段数	前進	6段(副変速機使用)				
	後進	2段(〃)				
PTO 回転速度 (rpm)		低速： 867 高速：1,739				
操向クラッチ方式		—	ボール式	—	ボール式	
安全鑑定適合番号		802012	802013	802014	802015	802018

メ　モ



30734080
00X30-734-0801

Ⓝ 300861